



公立大学法人

福島県立医科大学

医療人育成・支援センター年報

2022年度

目 次

1. 挨拶	医療人育成・支援センター長 大谷 晃司	1
2. スタッフ紹介		3
3. 各部門の取組		
1) 医学教育部門	部門長 亀岡（色摩）弥生	7
・活動カレンダー		
・福島医大模擬患者（SP）の会／スキルラボ／OSCE／		
BSLプライマリーコースの医療面接実習／コミュニケーション論／		
地域実習1／早期ポリクリニック／TBL（臨床実習入門）／		
英語による医療面接／多職種連携授業／医療入門1（臨床実習入門）／		
オンライン臨床実習／Moodleを用いた臨床実習評価／		
オーディエンス・レスポンス・システム～ターニングポイントの活用／		
出前講座／学校見学／		
2) 臨床医学教育研修部門	部門長 大谷 晃司	42
・活動カレンダー		
・4年生との未来を語る会／研修医説明会／		
福島県臨床研修病院ネットワークの活動／		
福島・良き医師を育むプロジェクト／指導医講習会／		
臨床研修医に対する支援：教育（メンター制度を除く）／		
臨床研修医に対する支援：メンター制度／		
福島県地域医療を考える懇談会／		
3) 看護学教育研修部門	部門長 高瀬 佳苗	70
・活動カレンダー		
・看護学部生を対象とした就職ガイダンス／出前講座／学校見学／		
看護職を対象とした教育研修		
4) 災害医療総合学習センター	センター長 長谷川 有史	78
・活動カレンダー		
・災害医療総合学習センター事業概要		
5) 保健科学教育研修部門	部門長 久保 均	86
・活動カレンダー		
・出前講座／学校見学／2022年度医療施設等を対象とした教育研修		
4. 研究業績		93

1. 挨 拶



医療人育成・支援センター長あいさつ

公立大学法人 福島県立医科大学
医療人育成・支援センター センター長
大谷 晃 司



2022年度の医療人育成・支援センターの年報発刊にあたって

医療人育成・支援センターは、2008年4月、卒前医学教育と卒後臨床研修を一貫して支援する組織として本学内に設立されました。

2014年4月1日から本学の組織改正に伴い、当センターは、医学教育部門、臨床医学教育研修部門、看護学教育研修部門、災害医療総合学習センターの4部門が置かれ、それぞれ各部門が担う役割を果たし、学部教育・卒後教育の充実をはかり、よき医療人の育成を目指して取り組んでいます。そして、2021年4月からは、新たに診療放射線学科、理学療法学科、作業療法学科、および臨床検査学科からなる保健科学部が設立され、福島医大は医療系の総合大学に生まれ変わりました。

災害医療総合学習センターは、災害医療・放射線医療に係る教育・研修体制の充実、人材育成に取り組んでおり、福島医大生に対する教育だけでなく、県内はもとより、県外からも多くの人を受け入れています。その活動は、国内外から高く評価されています。

当センターは、本学の横断的組織として、総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学、また、医学部、看護学部、保健科学部の学部を越えて、学生から医師、看護師、その他の医療人を育成し、その成長をシームレスに支援しています。

今後も当センターにご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2023年8月吉日

2. スタッフ紹介



スタッフ紹介

2022年度

センター長

教授 大谷 晃司

○医学教育部門

部門長	教授	亀岡 弥生
教員	助教	青木 俊太郎
	助教	及川 沙耶佳
	(兼)助教	日高 亜紀子
	(兼)助教	中村 光輝
	助手	赤間 孝洋
	助手	諸井 陽子

○臨床医学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	大谷 晃司
(兼)副部門長	(兼)教授	濱口 杉大
(兼)副部門長	(兼)教授	木村 隆
教員	講師	川井 巧
	助教	唐 尊一
	助手	安田 恵
	助手	マハム・スタンヨン

○看護学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	高瀬 佳苗
教員	(兼)准教授	丸山 育子

○災害医療総合学習センター

(兼)センター長	(兼)教授	長谷川 有史
	(兼)教授	坪倉 正治

○保健科学教育研修部門

(兼)部門長	(兼)教授	久保 均
--------	-------	------

○事務局

(兼) 教育研修支援課長	後藤	雅樹
(兼) 主幹兼副課長(総務)	小松	慶一
(兼) 副課長兼主任主査兼係長(業務)	酒井	美登里
(兼) 主任主査兼係長	浅野	忠大
(兼) 主任主査兼係長	兼田	正人
(兼) 係長	中村	大
(兼) 主査	高倉	好和
(兼) 主査	石田	英祐
(兼) 副主査	橋本	光
(兼) 副主査	小野	睦美
(兼) 主事	後藤	将利
(兼) 主事	榊原	志保
(兼) 主事	野内	珠空
(兼) 主事(短)	中村	玲菜
(兼) 主事(短)	鈴木	佐和子
(兼) 主事(短)	高井	早生
(兼) 主事(短)	穴戸	久美子
(兼) 主事(短)	小田川	恵美
(兼) 主事(短)	柏倉	咲七枝
(兼) 主事(短)	久保	敦子
(兼) 主事(短)	伊藤	令子
(兼) 主事(短)	齋藤	亜紀
(兼) 主事(短)	齋藤	ゆりえ

※2022年6月1日現在

3. 各部門の取組



1) 医学教育部門



ご 挨拶

医学教育部門長 亀岡（色摩）弥生

新型コロナウイルス感染症が日本に上陸して3年目の2022年度は、過去2年間でノウハウを培った遠隔会議システムやシミュレータを駆使した活動を残しながらも、コロナ禍前のような対面での活動が増え、私達のアクティビティが拡大した一年だったと感じております。

学外の施設で行う「地域実習1」は学生を受け入れてもらうことができず、昨年度同様大学内で代替授業を行いました。1年生の「早期ポリクリ」では3年ぶりに一部の施設に足を運ぶことを許されました。4年生の医療面接実習やSP演習、BSLの医療面接も、SPさんに来学いただき対面で行うことができました。また、SP会も全て対面で行いましたが、いずれも感染を引き起こすことはなく安堵しております。昨年度、遠隔会議システムを介した小グループ討論を行ったことで学生からやりにくさを訴えられていた「基礎臨床統合授業」は、対面で討論して発表しあうという本来の反転授業の形式で行うことができました。

一方、コロナ禍の経験がもたらした良いこともありました。年間数回開催される全国OSCE説明会は全て遠隔会議システムを介して開催されるようになり、私たちは出張せずに教室から参加し、時間と労力を節約しながら情報共有できるようになりました。遠隔会議システムは、国外で活躍する先生をFDの講師に迎えることも可能にしました。感染対策のために学生を少人数に分けてシミュレータを用い実技を教えるようにした4年生の「臨床実習入門」は、担当教員から「一度に全員に教えていた頃よりも整然とした環境で学生に目が届いて教えやすい」との感想をいただいています。

また、OSCEにも変化がありました。2023年からPre-CC OSCEが公的化されることが決定し、2022年はコロナ特例措置として身体診察には模擬患者の代わりにシミュレータを使うことが許されながらも、8種類の課題の試験が義務化されました。来年度からは非認定評価者による評価は認められなくなり、近い将来患者役は全て学外の認定模擬患者が行うこととなります。本学も「認定模擬患者養成施設」の申請を行い、希望する本学のSPさんが機構から“認定”を得られるよう手続きを進めています。Post-CC OSCEにはまだ公的化の話はでていませんが、2022年度は3年ぶりにSPさんを相手に面接と診察を行う形で6課題の試験を行いました。

上記の仕事は全て、医学教育部門と臨床医学教育研修部門のメンバーが協力して行っています。2022年度はメンバーの異動もありました。4月に神経精神医学講座から赤間孝洋先生をお迎えし、9月には講師の川井巧先生が開業のため当センターを去られました。安井清孝先生は4月からいわき市の医療創生大学で仕事をされていましたが、12月に当センターに復帰されました。

このほか、2022年度は、大学内の教員からの教育業務に関する相談に対応する「教育実習相談窓口」を開設しました。学術活動の面でも当センターからの英語論文4報が教育雑誌に掲載されるなど、少しずつ活動の幅を広げ、その実りも見えるようになってきています。なかなか未来を予測できない中で、今後ますます我々の日頃の取り組みが大学全体の教育の改善にとって結実し、メンバー一人一人の成長に繋がっていくことを祈念致します。

2022 年度

2022 年

- 4 月 27 日 医学教育ワークショップ『新任・昇任教員研修』
- 5 月 13 日 医学教育ワークショップ『新任・昇任教員研修』（4/27 と同内容）
- 5 月 31 日 第 2 回 SP 会
- 6 月 14 日 医療面接実習・SP 演習シナリオ練習会①
- 6 月 20 日 医療面接実習・SP 演習シナリオ練習会②
- 6 月 27 日 医学教育ワークショップ『ギャップに気づくフィードバック』
- 6 月 28 日 医療面接実習（医学部 4 年生）①
- 6 月 30 日 医療面接実習（医学部 4 年生）②
- 8 月 Pre-CC OSCE 課題評価すり合わせ（複数回実施）
- 8 月 23 日 医学教育ワークショップ
『What foreign language skills are needed for the medical profession of the future?』
- 講演① 「Foreign Language skills for today's medical workforce」
講師：医療人育成・支援センター Maham Stanyon 先生
- 講演② 「将来の医療人に求められる外国語能力についてなぜ臨床医にとって外国語学習が必要か？」
講師：総合内科 會田 哲朗 先生
- 講演③ 「将来の医療人に求められる外国語能力とは？
～研究者の立場から～」
講師：総合科学教育研究センター 後藤 あや 先生
- 8 月 30 日 Pre-CC OSCE シナリオ練習会①
- 8 月 31 日 SP 実習（医学部 4 年生）①
- 9 月 2 日 SP 実習（医学部 4 年生）②
- 9 月 6 日 Pre-CC OSCE シナリオ練習会②
- 9 月 17 日 Pre-CC OSCE（医学部 4 年生）
- 9 月 27 日 第 3 回 SP 会
- 10 月 Post-CC OSCE 課題評価すり合わせ（11 月まで複数回実施）
- 10 月 11 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会①
- 11 月 1 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会②
- 11 月 8 日 Post-CC OSCE シナリオ練習会③
- 11 月 12 日 Post-CC OSCE（医学部 6 年生）1 日目
- 11 月 15 日 Post-CC OSCE（医学部 6 年生）2 日目
- 11 月 21 日 医学教育ワークショップ（Zoom 開催）
講演 「南アジアの医学教育－実践を通して得た学び」
講師：Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of Bhutan

(KGUMSB) 西澤 和子 先生

11月29日 コミュニケーション論試験シナリオ練習会

12月5日 コミュニケーション論試験 (医学部1年生)

12月20日 医学教育ワークショップ (Zoom 開催)

『教育実践の共有～BSL編～』

講師：整形外科学講座 草野 敬悟 先生

医療人育成・支援センター 中村 光輝 先生

2023年

2月20日 医学教育ワークショップ『シナリオブラッシュアップ研修会』(CLOSED 開催)

2月27日 医学教育ワークショップ『シナリオブラッシュアップ研修会』(CLOSED 開催)

福島医大医学部模擬患者（SP）の会

福島医大医学部模擬患者（SP）の会は2009年に発足し、医療面接実習、4・5年生のBSL、各種試験等で活躍してきました。今年度は感染予防対策の上で模擬患者会を開催し、医学部試験及びBSLにて、SPさんにご活躍いただきました。

2022年度模擬患者会

1. 模擬患者会

対面式とZOOMによるオンライン参加のハイブリッド方式で開催しました。

3月 オリエンテーション

5月 医療面接のおさらい

9月 共感的コミュニケーション／教員による講演

2. 医療面接実習とSP演習（医学部4年生）

SPさんが来学し、対面にて医療面接を実施しました。

3. 共用試験OSCE（医学部4年生）

8月～9月 シナリオ練習（2回）

9月 OSCE、OSCE再試

4. 共用試験OSCE（医学部6年生）

10月～11月 シナリオ練習（3回）

11月 OSCE

12月 OSCE再試

5. コミュニケーション論試験

11月 コミュニケーション論シナリオ練習（1回）

12月 コミュニケーション論試験

6. 模擬患者会瓦版発行

模擬患者会の情報交流のために、瓦版を発行しました。

7. 新規模擬患者養成講座

2～3月にかけて、新規模擬患者養成講座を3度開催し、新規模擬患者さんを養成しました。

クリニカル・スキルス・ラボラトリー（スキルラボ）

本学のスキルラボはシミュレーション学習施設として2009年4月にオープンし、9年目の2017年度には利用者のアクセスと学習内容を考慮して、スキルラボ・きぼう棟を開所した。従来からのアドバンス、ベーシック、手術室を含めた4部構成として運用しており、医学生をはじめ、看護学生、教員、臨床研修医、附属病院スタッフなどが幅広い目的で利用している。2019年10月には、IoT技術を利用した入退管理システムを開発し、スキルラボ・きぼう棟にて試験的に運用を開始した。シミュレータや設備の充実を図りながら、多様なニーズに合わせたトレーニングができるよう利用者の視点で工夫を重ねている。

【1. 施設概要】

スキルラボ・きぼう棟（きぼう棟4階西）245㎡（2017年4月オープン）

病棟をそのまま利用し、手技毎に部屋を設定し、シミュレータ・機器を常時設置している。採血や導尿などの基本手技から腹腔鏡下手術などの高度な診療技能をトレーニングするシミュレータを整備し、医学生や臨床研修医を中心に利用されている。

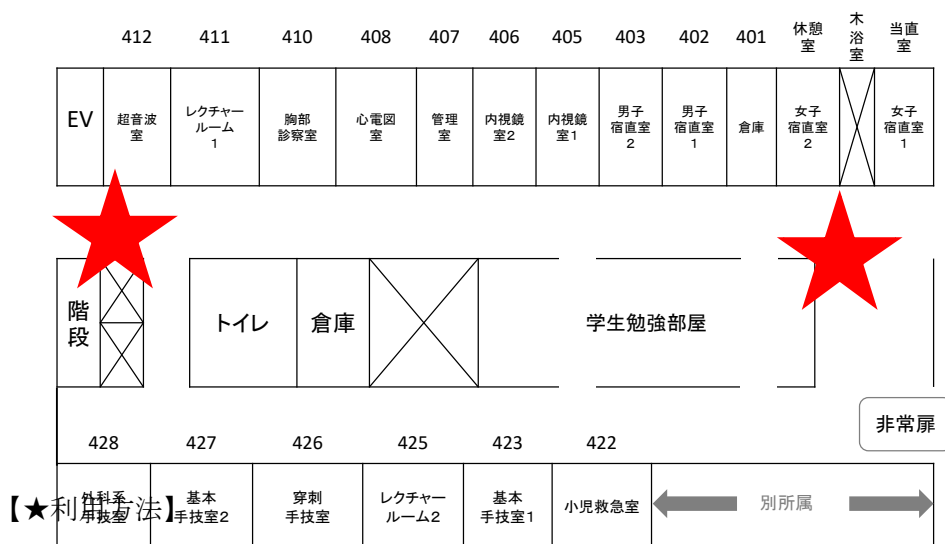
2019年10月に、IoT（Internet of Thingの略。センサー機器、電子デバイスなどの様々なモノ「物」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組みである）技術を利用した入退管理システム（★）を開発し導入した。

【★システム構成】

1. カードサイズのコンピューター「Raspberry Pi（ラズベリーパイ）3 Model B+」、2台
2. タッチパネル対応のモニター「Dell P2418HT 23.8インチ」、2台
3. 非接触ICカードリーダー「Sony RC-S370」、2台
4. カウンターテーブル、2台

【★設置場所】

- ・東西の入り口、計2か所



設置風景（西側入り口）

入室の前に、自分の目的と当てはまる項目をタッチして、自分の IC カードで簡単に入室登録を行う。IC カードをかざしたら「入室を登録しました」と「自分の名前などの情報」が表示し、確認することができる（事前にカードを登録した場合）。

スキルラボ・アドバンス（4号館5階）310 m²

広いオープンスペースを保有しており救急蘇生トレーニングや模擬患者養成講座に活用されているほか、医療面接・診察録画フィードバックシステムを活用して医療コミュニケーション学習に活用されている。

スキルラボ・ベーシック（8号館2階）481 m²

基本的な診察手技やベッドサイドでの患者の診察・処置・ケアが大人数で学習できるようにレイアウトされた学習スペース。看護学生や看護師がフィジカルアセスメントや採血手技などを学習できるようシミュレータを配置している。

スキルラボ・手術室（附属病院2階）12 m²

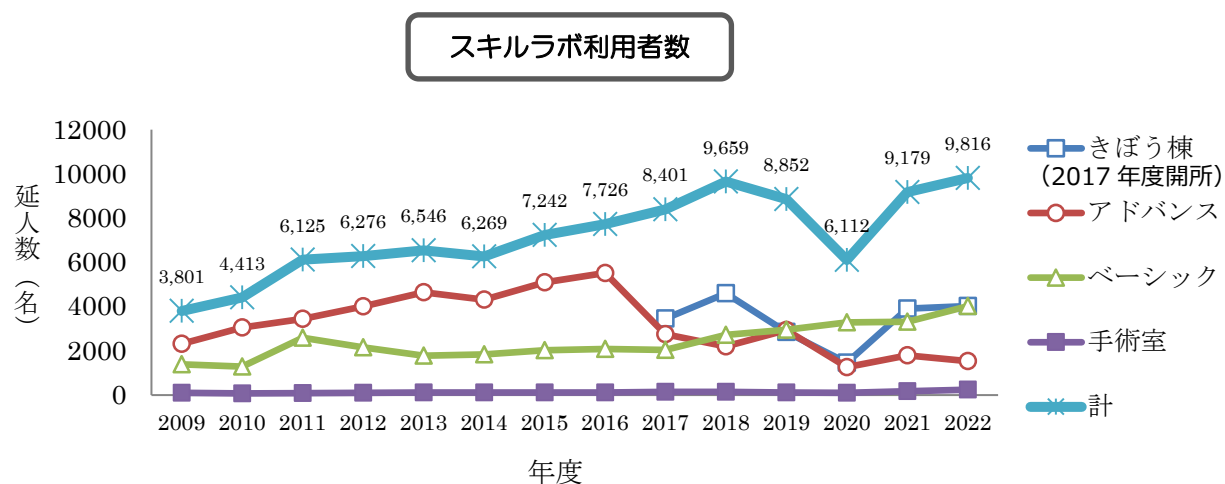
2021年9月に麻酔科外来に移転した。全身麻酔に伴う呼吸・循環の変化、急変対応が高性能シミュレータで学習できる。

【2. 利用実績】

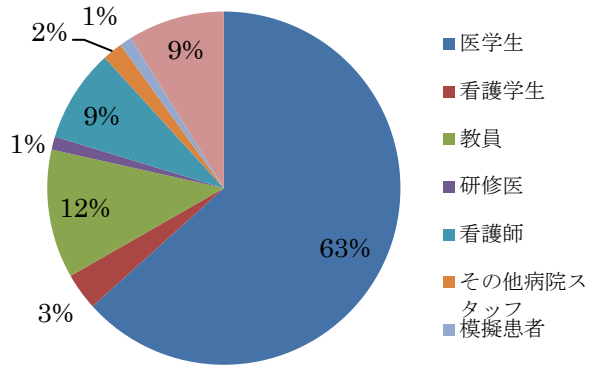
オープン後3年目（2011年度）以降は、年間6,000余名の利用が続いており、きぼう棟を開所した2017年度の年間延べ利用者数は8,000名を超えた。

2017年に開所した「スキルラボ・きぼう棟」は、前年度までスキルラボ・アドバンスに活用されていた多くのシミュレータを移動して各室に設置し、医学部4～6年生への各診療科BSLで多く活用されている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時駅にスキルラボの利用者数は減少したが、2021年度は感染対策を実施し、授業を中心に活用された。

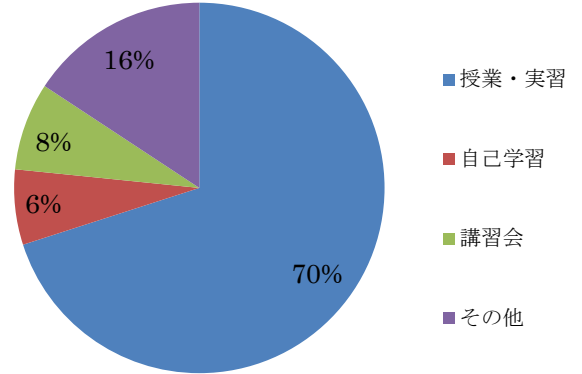


利用者内訳



2022年度 延 9,816名

利用目的内訳



2022年度 731件

< 利用例 > 下線 は 2022 年度より新規利用

【医学部】

(1) 臨床実習BSL (医学部 4、5、6年)

- | | |
|---------------|---|
| ・循環器内科学講座 | … 心音・心雑音聴診、心エコー、心臓カテーテル手技、12誘導心電図、レクチャー (心疾患、循環器の薬) |
| ・消化器内科学講座 | … 腹部エコー、消化管内視鏡 |
| ・腎臓高血圧内科 | … 静脈採血、末梢ライン確保 |
| ・脳神経内科学講座 | … 腰椎穿刺、頸動脈エコー実習 |
| ・呼吸器内科学講座 | … 呼吸音聴診、気管支内視鏡検査 |
| ・外科① | … ガウンテクニック、腹腔鏡下手術 |
| ・呼吸器外科学講座 | … 胸腔穿刺 |
| ・整形外科学講座 | … 外科手術実習・医療安全 |
| ・小児科学講座 | … 小児静脈ライン確保、乳児救急蘇生 |
| ・泌尿器科学講座 | … 導尿、前立腺指診、腹腔鏡下手術 |
| ・耳鼻咽喉科学講座 | … 気管切開、気管カニューレ交換 |
| ・神経精神医学講座 | … 腰椎穿刺 |
| ・麻酔科学講座 | … 麻酔、呼吸管理 |
| ・救急医療学講座 | … 心エコー、FAST |
| ・臨床検査医学講座 | … 静脈採血 |
| ・検査部 | … 腹部エコー |
| ・医療人育成・支援センター | … 医療面接、 <u>カルテの書き方</u> |

- (2) 臨床実習入門（医学部 4 年） …… 各種診察手技、採血、心電図、清潔操作、ガウンテクニック漢方医学Ⅲ
- (3) 基礎上級（医学部 4 年） …… 静脈採血
- (4) 地域実習Ⅰ（医学部 1 年） …… 患者体験、介助体験
- (5) OSCE
 - ・ OSCE 事前準備 …… 評価者すり合わせ
 - ・ 医学部 4 年 …… 臨床実習前 OSCE
 - ・ 医学部 6 年 …… Post-CC OSCE
- (6) 自己学習（医学部 4、6 年）
 - 呼吸音聴診、腹部診察
 - 血圧測定、心電図、直腸診、頭頸部診察、救急、採血

【看護学部】

- ・ 基礎看護学部門（看護学部 1・2 年） …… 看護技術とアセスメントⅢ
ナースユニフォーム試着、販売
- ・ 成人・老年看護学部門（看護学部 3 年） …… 領域別実習
- ・ 母性・助産学部門（看護学部 4 年） …… 助産学

【附属病院】

- ・ 看護部 …… プリセプター育成研修、BLS 勉強会
CNI 研修、チームで取り組む医療安全 WEB 研修
新人研修、看護助手研修、夜勤看護助手研修、急性期看護Ⅱ研修
東北ストーマリハビリテーション講習会
- ・ 研修医 …… オリエンテーション、自己学習（気管支内視鏡）
- ・ 集中治療部 …… ファーストエイド実技コース

【その他】

- ・ 看護師特定行為研修センター …… 各種技術研修、OSCE
- ・ 各種トレーニングコース …… AHA BLS ヘルスクエアプロバイダーコース、ICLS コース
小児の二次救命処置 PEARS、BLS プロバイダーコース、
BLS・AED 講習会、ACLS 講習会
- ・ 泌尿器科学講座 …… 写真撮影（教育用）
- ・ 心臓血管外科学講座 …… 「ウエットラボ」、CV シミュレータ（研修医教育、他）
- ・ 放射線医学県民健康管理センター …… 実技演習ワークショップ
- ・ 呼吸器内科学講座 …… 気管支内視鏡 自己学習
- ・ 肝胆膵・移植外科学講座 …… 腹腔鏡下手術 自己学習
- ・ 教育研修支援課 …… 医学部入試（面接室）
- ・ 医療人育成・支援センター …… FD に向けたビデオ撮影、FD (OSCE 課題作成)
- ・ 模擬患者養成講習会

【長期的貸出】

- ・災害医療総合学習センター … シムマン (エッセンシャル) 1 台
シンチレーション式サーベイメーター (ZnS) 1 台
シンチレーションサーベイメーター (NaI) 5 台
GM サーベイメーター 5 台
- ・耳鼻咽喉科学講座 … 耳の診察シミュレータ EAR 1 台
- ・研修医室 … 縫合手技トレーニング腕部セット 2 セット
- ・救急医療学講座 … セーブマン 1 体
エアウエイトレーナー 1 セット

【スキルラボ利用の様子】



医学生の心電図実習



高校生の大学見学 (スキルラボ体験)



中学生の大学見学 (職業体験)



看護部の新人研修

OSCE

2006年度より4年生対象に実施している臨床実習前 OSCE、2020年度より正式実施となった6年生対象の臨床実習後 OSCE (Post CC OSCE) に関して、Covid-19の影響により一昨年度から実施課題数や評価者数、医療面接・身体診察の模擬患者などについて特例措置が講じられました。

本学での感染症対策としては体温測定、マスク着用、手指のアルコール消毒、各ステーションの十分な面積の確保、定期的な換気以外に、医療面接模擬患者との間に飛沫防止スクリーンの設置、診察が必要な手技は一部を除き、シミュレーターかエアーマネキンで対応し、試験終了後のシミュレーター消毒の時間も設けました。

試験の運営に関しては特に問題はありませんでしたが、従来模擬患者さんに行なっていた診察がシミュレーターやエアーマネキンになったため、評価者から正確な評価が難しいという意見も認められました。

I. 共用試験臨床実習前 OSCE

臨床実習前 OSCE が正式実施となり、15年以上経過しました。臨床実習前における基本的臨床能力について、共用試験 OSCE が導入される前よりも導入後の方が高くなったとの調査報告もあります。一方、今後は OSCE 導入の真の目的であった、診療参加型臨床実習の導入や充実については今後検証する必要があると考えられます。

【Pre CC OSCE (令和4年度)】

実施日：令和4年9月14日(水)、9月17日(土)

対象：医学部4年生全員(令和4年度132名)

受験課題：「医療面接」「頭頸部診察」「腹部診察」「神経診察」の必須課題を含む計8課題

評価者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員

場所：スキルラボ・きぼう棟、8号館4階

II. 共用試験臨床実習後 OSCE

共用試験臨床実習後 OSCE では、卒後臨床初期研修の開始時に必要とされる臨床能力のうち、以下の内容が臨床現場に即して定められた時間内に適切に実施できるかを評価します。

- ① 医療面接、身体診察
- ② 患者さんの状態への配慮、並びに心理的・社会的背景への配慮
- ③ 医療安全・感染対策の遵守
- ④ 得られた情報に基づく病態の解釈と頻度の高い、あるいは重要な疾患の想起(臨床推論)
- ⑤ 上級医への症例プレゼンテーション

【Post CC OSCE (令和4年度)】

実施日：令和4年11月12日(土)、15日(火)

対象：医学部6年生全員(令和4年度122名)

受験課題：症例指向性臨床技能試験（16分）3題

臨床技能試験（5分）3題

課題構成：症例指向性臨床技能試験（16分）

課題1 医療面接・身体診察（12分）

課題2 情報整理・指導医への報告（4分）

臨床実技試験（5分）

BSLで修得した検査手技、検査所見の報告など（5分）

評価者：臨床系講座及び医療人育成・支援センター教員

場所：スキルラボ・きぼう棟、8号館4階

指導者養成 (Faculty Development : FD)

大学設置基準は、年に1回以上のFD参加を大学教員の義務としています。一方、FDの企画と実施は、必要に応じて誰でも行うことができる仕組みになっています。近年は、CBTや進級試験のブラッシュアップや6年生の総括講義の質向上のFDを教務委員により企画されて行われていますが、これらは対象となる参加者が試験作題者や授業担当者などに限定されてしまいます。そこで、医療人育成・支援センターでは、新任・昇任教員と対象とした研修、OSCEシナリオブラッシュアップ研修に加えて、全ての医学部教員を対象としたFDを毎年企画して実施しています。2022年度は、全ての教員の悩みに応えスキルアップを目指した「ギャップに気づくフィードバック」、外国語教育の在り方を考えたり海外での医学教育経験談を共有する等、教育に対するより広い視座を醸成する企画が実践されました。以下は、医療人育成・支援センターが主催した2022年度のFDです。

開催日	場所	タイトルと内容
2022年4月27日(水) 2022年5月13日(金)	7号館大会議室	<p>「新任・昇任教員研修」</p> <p>福島医大に新任教員として赴任した教員、若しくは昇任した教員に向け、本学の卒前教育の仕組みなどを伝える。また、試験の在り方の議論を通して、医学部教育の意義について考えを深める</p> <p>講師：及川沙耶佳、亀岡弥生</p> <p>動画出演：川井 巧、青木俊太郎、諸井陽子 (医療人育成・支援センター)</p>
2022年6月27日(月)	Zoom開催	<p>「ギャップに気づくフィードバック」</p> <p>フィードバックに関する基本的事項を共有し、自身のフィードバックスタイルを振り返る。「ギャップに気づくフィードバック」を体験し、フィードバックされる側の心理を追体験する</p> <p>講師：青木俊太郎先生 (医療人育成・支援センター)</p>
2022年8月23日(火)	6号館2階 第3講義室	<p>「What foreign language skills are needed for the medical profession of the future？」</p> <p>医療系学部の外国語教育の現状を理解し、今後の医療者教育に求められる外国語教育について考えを深める</p> <p>講師：Maham Stanyon 先生</p>

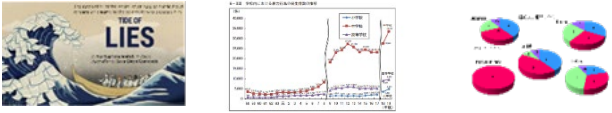
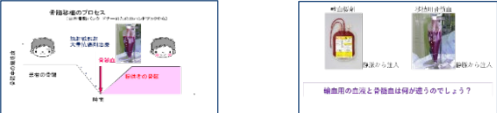
		<p>(医療人育成・支援センター)</p> <p>會田哲朗先生 (総合内科学講座)</p> <p>後藤あや先生 (総合科学部門)</p>
2022年11月21日(月)	Zoom開催	<p>「南アジアの医学教育—実践を通して得た学び」</p> <p>ブータン王国での医療、医学教育の実践について理解を深め、日本の医学教育について相対的な視座を持つ</p> <p>講師：西澤和子先生 (Khesar Gyalpo University of Medical Sciences of Bhutan (KGUMSB))</p>
2022年12月20日(火)	Zoom開催	<p>「教育実践の共有～BSL編～」</p> <p>BSLの意義を再認識し、本学でBSLがどのように行われているか情報共有する。有効なBSL行うためにどのような工夫が可能か考えを深める</p> <p>講師：草野敬悟先生 (整形外科学講座)</p> <p>中村光輝先生 (地域・家庭医療学講座)</p>
2023年2月20日(月) 2023年2月27日(月)	対面開催 (クローズド)	<p>「シナリオブラッシュアップ研修会」</p> <p>実技試験で使用する問題を各診療科の課題作成委員が中心となって作成し、さらにその内容を複数科の意見を踏まえながらブラッシュアップする</p>

企画・ファシリテータ：及川沙耶佳

チュートリアル準備教育「チュートリアル1」

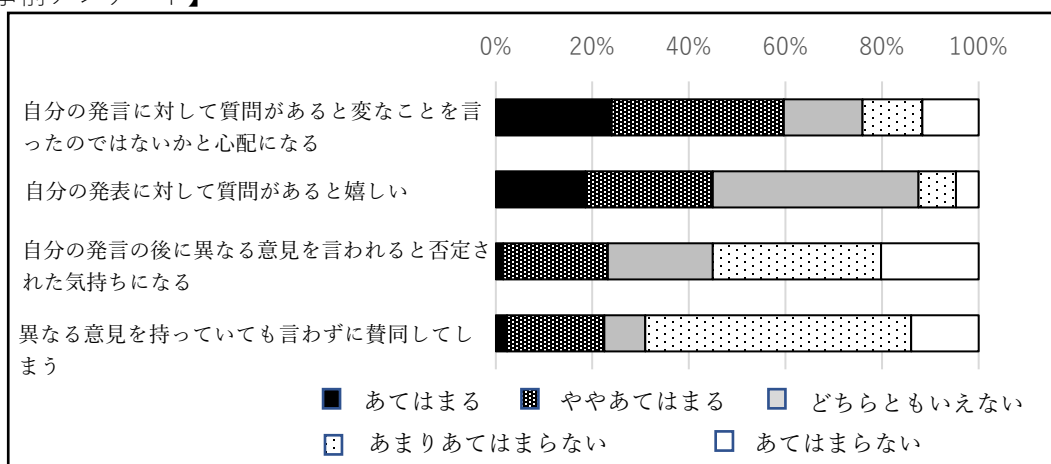
Problem-based learning (PBL)は、1960年にカナダのマクマスター大学で開発された、課題を発見する能力・自学自習の習慣・問題解決能力・集団行動能力の獲得を目的とする授業方法です。学生は小人数のグループに分かれて、チューターの助言を得ながら提示された現象から課題を抽出し、課題解決を図ります。しかし、東アジアの国々では欧米の大学が報告しているほど学生の議論が盛り上がりがないという報告があり、本学のチュートリアルも調べものを分担して発表するだけの授業になりがちであるとの報告が毎年チューターの先生方から出されていました。そこで2021年から、議論の意義とその方法を学ぶためのチュートリアル準備教育「チュートリアル1」を、医療人育成・支援センターが開発し担当するようになりました。

「チュートリアル1」の主な学習目標は、(1)一つの事象を多様な視点から考えることの重要性を体得する (2)自分なりの疑問を持つことができる (3)自分の考えを自分の言葉で論理的かつわかりやすく説明できる、の3点です。130名の新入生を5~6人から成る24班に分けて、「自身の考えの記述」⇒「グループワーク」⇒「グループ間ワーク」⇒「講義」の順に進めることによって、興味とレディネスを高め、学生には予め配布したポートフォリオに授業中の思考過程を記入してもらい、学習者評価は、ポートフォリオに基づいて行いました。

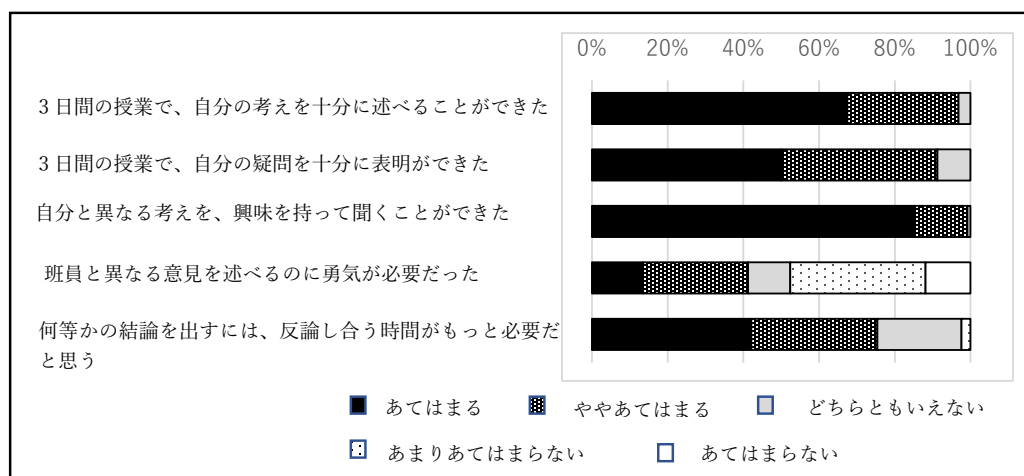
日時	テーマ	内容
4月20日 (水)	IV	大学で学ぶということー多角的視点の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医師憲章3つの原則と10の責務を提示 ・ 原則と責務の間に対立が生じる事例（「エホバの証人信者の娘への輸血」、「遺伝子診断による不都合な真実」）について自身の考えとグループの考えをまとめ、ロールプレイで実践。
	V/VI	議論の作法1 「必ず疑問を持つ」ー質問の意義と質 <ul style="list-style-type: none"> ・ (個人) 提示された図に対して可能な限り質問を書きとめる  <ul style="list-style-type: none"> ・ (グループ内) 疑問を共有、マトリックスを作成して分類、”イチオシ質問“を選出した ・ (グループ間) マトリックスを交換し、”イチオシ質問“とそれを選んだ理由を伝え合った ・ (グループ内) 通常のPBLチュートリアル形式で図(医学的テーマ)を見て質問を抽出し、調査を分担した 
4月27日	IV/V	議論の作法2 <ul style="list-style-type: none"> ・ (講義)「発表者と聴衆両者に利益をもたらす質問

(水)		「自分の言葉で伝えよう」－質疑応答の作法	<p>の仕方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(グループ内) 通常のPBL テュートリアル形式で各自の調査結果を発表→質疑応答→グループのベストアンサー作成 ・(グループ間) ベストアンサーを発表し合い、質疑応答
5月16日 (月)	IV/V	医師の守秘義務について考える (帰納的思考と演繹的思考)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師が守秘すべきか迷うケースにおいて、医師の取るべき行為を、個人で思考→グループ討論→全体共有 ・守秘義務が適用されない場合の条件を、個人で思考→グループ討論→全体共有 ・(講義)「法的視点からみた医師の守秘義務」 講師：人間科学講座教授 藤野美都子先生

【事前アンケート】



【授業後アンケート結果】



人体機能学概論「手洗い実習」

医学部 1 年生を対象に実施される「人体機能学概論」の中の「手洗い実習」を担当しました。COVID-19 の流行で日常の手洗い等の衛生管理が改めて注目される中で、医学部 1 年生には日常的手洗いについて、より効果的な手洗いを学んでもらうべく、実習を企画しました。

学生 3~4 人を 1 グループとして、実際に手洗いを行った成果はグループ内で共有しながら学びを深められるように行いました。

実習では実際に病院で使用される手洗いの動画を供覧し、グリッターバグ (図 1) を用いて実際に手洗いを複数回行いました。動画を見る前、動画を見た後の手洗いで汚れの落ち具合を確認し、固形石けん・液体ハンドソープなど種類の違う洗浄剤も実際に体験してもらいました。COVID-19 で使用頻度が激増したアルコール消毒についても説明し、汚れを落とすことと消毒の違いについても理解してもらいました。

最後には自宅や実家に貼ることを想定し、適切な手洗いを啓発するポスターを作成してもらい、今回の学びを言語化してもらいました。

【実習の様子】

図 1 グリッターバグ



図 2 グリッターバグで汚れを確認する学生

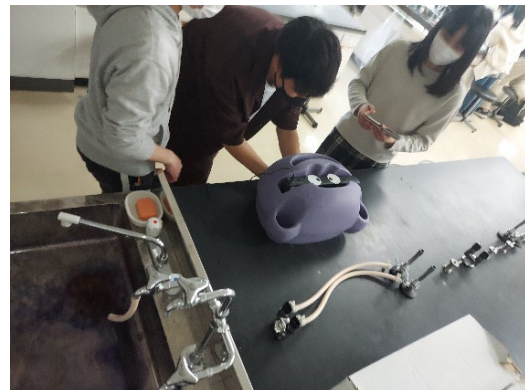


図 3 授業の様子



早期ポリクリニック

早期ポリクリニック（早期ポリクリ）は、1年生の1学期に病院の様々な部署を見学する2日間の実習で、医療人になるという自覚の形成、基本的マナーの習得に加えて、医療が様々な職種の人たちによって支えられていることを知ることを目的としています。テレビドラマの舞台となる外来、病棟、手術室、救急センター以外にも医師が担う仕事があります。そして全ての医療業務は医療専門職以外の人達が休みなく稼働させるシステム無しには成り立ちません。早期ポリクリでは、患者として病院を訪れる際には目にしない病理部や救命救急センター等の中央診療部門と、物品供給センター、焼却炉などの管理部門を班ごとに1日かけて回り、もう1日は病棟で看護業務と医師の業務を見学します。管理部門の見学は2015年から早期ポリクリに組み込まれました。中央診療部門と管理部門の見学後と病棟体験後に、実習で見たり体験したりしたことから、プロフェッショナルとはどういうことかを各自で考察し、レポートを提出します。

2022年度は、2021年度から取り入れた医療接遇の授業を加え、コロナ禍前の形態である2日間の見学・体験を実施しました。

【実施概要】

日程	I 群 (65名)	II 群 (65名)
5月15日 (月)	医療接遇 13:00-14:20 (医療現場で必要とされる接遇)	
6月21日 (水)	オリエンテーション 13:00-16:50 (病院長講話、看護部長講話、中央診療施設・管理部門の概要説明)	
6月22日 (木)	病棟体験実習 9:00-16:00	中央診療施設・管理部門見学 8:40-17:20
6月23日 (金)	中央診療施設・管理部門見学 8:40-17:20	病棟体験実習 9:00-16:00

【協力部署】

○病棟体験実習

- ・福島県立医科大学附属病院 (14病棟)

○中央診療施設・管理部門見学 (14部署)

- ・手術部 ・材料部 ・病理部 ・検査部 ・放射線部
- ・患者サポートセンター ・放射線災害医療センター
- ・救命救急センター ・リハビリテーションセンター
- ・病歴室 ・焼却炉 ・中央監視室 ・防災センター ・物品供給センター

地域実習 1

医学部 1 年生は 9 月に地域実習 1 として、3 日間にわたり地域で生活する高齢者および重症心身障がい者（児）の医療について実習を行っています。本実習の目的は、「老いを支える」「障害と共に生きる」ということを理解し、健康であるとはどういうことなのか、考えを深めることにあります。例年、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、重度心身障がい児（者）施設での実習を行っていましたが、2020 年度からは新型コロナウイルス感染症の流行により学外施設での実習は困難となり、大学内で代替実習を行ってきました。

2022 年度は、認知症への理解を深めるために、新たに、認知症体験実習を導入しました。

【カリキュラム】

日程	時刻	内容	講師
9 月 30 日	午後	ガイダンス、高齢者と施設の理解	医療人育成・支援センター 諸井 陽子
10 月 12 日	午前	①在宅介護事業の実際 ②訪問リハビリテーションの実際	①やまなみ居宅介護支援事業所 所長 渡辺英明先生 ②わたり病院訪問リハビリテーション 作業療法士 佐藤栄作先生
	午後	介護体験（車いすと介助、他）	わたり病院訪問リハビリテーション 作業療法士 佐藤栄作先生 理学療法士 佐藤淳哉先生
10 月 13 日	午前	①療育の歴史と実際 ②養護教育の実際	①福島整肢療護園 医師 渡邊信雄先生 ②福島県立平支援助学校 進路指導主事 稲田健実先生
	午後	特別なコミュニケーション体験	医療人育成・支援センター 青木俊太郎
10 月 14 日	午前	シネメデュケーション	医療人育成・支援センター 諸井 陽子
	午後	認知症体験実習①（ミニレクチャー受講とロールプレイの実施）	諸井医療人育成・支援センター 諸井 陽子
10 月 18 日	午前	認知症体験実習②（認知症の対応に関するシナリオと動画の作成）	医療人育成・支援センター 諸井 陽子
10 月 24 日	午後	発表会（4 部屋に分かれて実施）	医療人育成・支援センター 赤間、及川、中村、安田、諸井

コミュニケーション論

1年生は9～12月にコミュニケーション論の授業があります。内容は、心理学的コミュニケーション論と、医療コミュニケーション論の二つの観点からコミュニケーションについて学びます。

1. 心理学的コミュニケーション論

患者さんと接する上での基本的コミュニケーションを取得することを目的とした授業を展開しています。特に、傾聴・共感的コミュニケーションをとることができるように、非言語的コミュニケーション、質問、言い換え、要約、感情の反映といったコミュニケーションを学びます。

①授業形式

座学、カウンセリング場面の動画視聴と課題抽出、グループディスカッション、iPadでの非言語的コミュニケーションの撮影と視聴、体験ワーク



カウンセリング場面の視聴動画

②授業内容

コミュニケーションの概要、非言語的コミュニケーション、質問、要約・言い換え、是認、感情の反映、まとめ

2. 医療コミュニケーション論

医療専門職として診断のために必要な情報収集技能の基本を習得します。医療面接の基本、各テーマの疾患に関する講義を受講後、各テーマに沿った医療面接のロールプレイを学生同士で行います。グループ内で医師役、患者役、観察役を担当し、医療面接のロールプレイを行なった上で何の疾患かを考えてもらいます。

2022年度

第1回テーマ「腹痛」（担当：地域家庭医療学講座 中村光輝）

第2回テーマ「頭痛」（担当：医療人育成・支援センター 安田恵）

3. コミュニケーション論試験

コミュニケーション論の総決算として、模擬患者さんに協力してもらい、共用試験OSCEを模した試験を実施しました。学生は白衣を着た正装で、制限時間5分間で医療情報を聴取する試験に臨みます。

試験で良くできていた点、出来ていなかった点に関しては後日全体フィードバックを行なっています。

基礎臨床統合授業

2021年度に開設した医学部2年生対象の「基礎臨床統合授業」を、基礎医学の知識を十分に使いこなすことを目的に一部リニューアルして行いました。

「基礎臨床統合授業」は、臨床教員からの「基礎医学と臨床医学の繋がりを理解していないために病態生理の理解が不十分」、臨床実習前の学生からの「これまでの学習がどう繋がるのか分からず不安だ」、卒業生からの「臨床における生理学、解剖学、免疫学の重要性を卒前に理解していればよかった」との声に応じて、基礎医学と臨床医学を有機的に繋げるための基礎医学と臨床医学の統合授業です。昨年はコロナ禍のため遠隔授業でしたが、対面の反転授業形式で行いました。

- 【目標】 (1) 基礎医学の知識を使って主要病態を説明できる
(2) 病気のメカニズムを暗記ではなく自分の頭で考えることができる

【授業の流れ】

- ① 事前学習：症例提示と課題開示→授業までに回答を提出 (google form)
- ② 授業前半 (1 時間)：①の課題に対するグループベストアンサーを word に作成し、メールで提出→印刷して担当講師と共有
- ③ 授業後半 (50 分)：担当講師がミニレクチャーを行いフィードバック
- ④ 事後学習：(i) 学生各自が事前学習を修正してマイベストアンサーとして提出
(ii) グループベストアンサーを講師が採点してグループメンバーに返却

【実施スケジュール】

1	2023 年 1 月 16 日 (月)	喘息	気管支像の読解・症状 と検査値	狭間章博先生 (生理学) 橋本優子先生 (病理学) 斎藤純平先生 (呼吸器内科)
2	1 月 17 日 (火)		呼吸機能	
3	1 月 23 日 (月)		病態と治療	
4	1 月 24 日 (火)	心不全	症状と検査値	狭間章博先生 (生理学) 永福智志先生 (生理学) 及川雅啓先生 (循環器内科)
5	1 月 30 日 (月)		心機能	
6	1 月 31 日 (火)		胸部 X 線と治療	
7	2 月 13 日 (月)	糖尿病	1 型糖尿病の症状	永福智志先生 (生理学) 橋本優子先生 (病理学) 鴻野央征先生 (糖尿病代謝 内分泌内科) 島袋充生先生 (")
8	2 月 14 日 (火)		ケトアシドーシス	
9	2 月 15 日 (水)		2 型糖尿病と腎機能	

ファシリテータ：安井清孝、亀岡弥生

TBL（第4学年：症候論とケーススタディ）

TBLとはTeam Based Learningの略で、グループで協同して問題を解くことにより、事前学習に基づいて学生がお互いに教え合い、学び合うことを狙いとしたアクティブ・ラーニングです。また、単に学習を促すだけでなく、授業に向き合う姿勢を加味した加点減点システムにより、お互いに切磋琢磨することを狙いとしたシステムです。福島県立医科大学では臨床実習前OSCE前の4年生の症候論でTBLを取り入れています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、Zoomおよびメンチメーターを活用した遠隔教育で実施しました。2021年、2022年度は、第1・2臨床講義室の2部屋を使用し、ある程度距離を確保してグループ学習を行いました。

授業日程・テーマ

	日時		テーマ	担当
	5月16日	月I	ガイダンス	
	5月23日	月I	オリエンテーション	
Unit 1	5月23日	月II/III	呼吸困難①	川井先生(医療人)
Unit 2	5月25日	水II/III	体重減少①	濱口先生(総合内科)
	5月30日	月II/III	体重減少②	鈴木先生(消化器内科)
Unit 3	6月1日	水II/III	めまい①	菊地先生(耳鼻咽喉科)
	6月6日	月II/III	めまい②	安田先生(医療人)
Unit 4	6月8日	水II/III	嘔気①	菅家先生(地域・家庭医療学講座)
	6月13日	月I	確認テストUnit1-4	
	6月13日	月II/III	体重減少③(チャレンジ)	マハム先生(医療人)
Unit 5	6月15日	水II/III	血尿①	中村先生(地域・家庭医療学講座)
Unit 6	6月27日	月II/III	発熱①	菅家先生(地域・家庭医療学講座)
	6月29日	水II/III	発熱②	安田先生(医療人)
Unit 7	7月4日	月II/III	リンパ節腫脹①	濱口先生(総合内科)
	7月6日	水II/III	リンパ節腫脹②	菅家先生(地域・家庭医療学講座)
Unit 8	7月11日	月II/III	意識障害①	川井先生(医療人)
	7月13日	水II/III	意識障害②	安田先生(医療人)
	7月20日	水I	確認テストUnit5-8	
	7月20日	水II/III	嘔気②(チャレンジ)	島袋先生(糖尿病・内分泌・代謝内科)

英語による医療面接

The Medical Interview in English Course

Since 2019, a concerted effort has been made to improve English language education at FMU through the introduction of a 'Medical Interview in English' course to the Year 4 students. This is the first course to teach students **clinical skills** in English, forming a vital connection between the liberal arts English tuition in Years 1, 2 and 3 and real-world medical practice in English.

The course has been designed specifically for FMU students and is cost- and time-effective in its approach. The course facilitates the clinical development of FMU students into competent medical practitioners in English, ready for the international healthcare challenges facing an increasingly globalised Japan.

Students enter reluctant to use English and leave more confident in applying real-life medical skills in English and with a desire for further clinical English exposure. The primary focus is on **clinical education** and therefore students of **all English abilities engage deeply** with the material.

Course benefits

- Increased student enthusiasm and attendance at medical English extra-curricular teaching
- Deepens understanding of cultural differences and the effect on medical systems and communication style
- Establishes links between FMU and foreign residents in Fukushima

Course design

Curriculum delivery of global medical English standards

The course curriculum aligns with the Japan Society for Medical English Education Committee Guidelines (derived according to the World Federation for Medical Education standards) and supports students of all English levels without segregating abilities, through the use of educational frameworks promoting teamwork and peer learning.

Lectures

During the course, interactive lectures equip the students with the skills to:

- Conduct a medical interview in English using the Calgary Cambridge consulting model¹, an evidence-based model for English medical interviewing widely used in UK medical schools
- Understand and navigate cultural differences in healthcare design and delivery and the impact on both patients and doctors
- Gain awareness of diseases that are more prevalent outside Japan and how to support patients with these conditions in Japan

A special bilingual digital lecture is delivered covering cultural differences in healthcare design and delivery, with invited guest speakers who hold international experience (Japanese physicians with international experience and foreign doctors with Japanese healthcare experience).

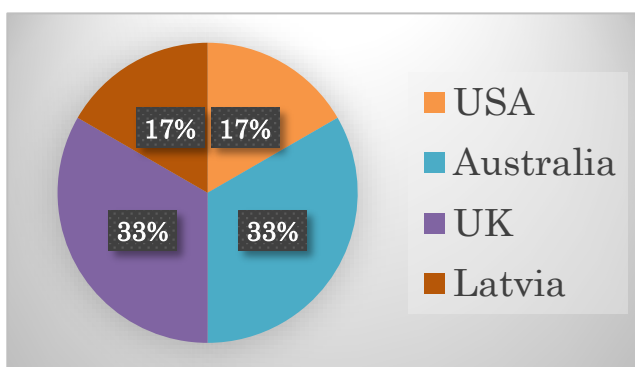
Simulated patient interviews

Students conduct medical interviews in groups of 4–5 with a native-English-speaking simulated patient. Interviews are conducted over ZOOM, requiring students to apply telemedicine skills in an authentic setting. The patients give feedback after the interview and the students repeat the interview to apply learning from the feedback in real time, as supported by Kolb’s cycle of experiential learning. Case scenarios are built for complexity and medical interest, with a focus on patient-centred interviewing in a culturally sensitive manner.

Table 1: Chart showing the simulated patient group numbers and country of origin

Current number of simulated patients: 6

Number of countries represented: 4



Team-based clinical reasoning

Following the simulated patient interview, students actively participate in a team-based clinical session to deepen their integration of clinical medicine with the patient narrative and build clinical reasoning skills. Students work through a series of complex clinical questions as teams to form a differential diagnosis and management plan for the clinical cases.

Concept mapping

To consolidate learning and facilitate assessment, students produce a concept map of learning during the course. The concept maps are an evidence-based approach to facilitate student consolidation of learning and to demonstrate learning for assessment without being restricted by English speaking ability. This course feature was presented at the international medical education conference, AMEE 2021.

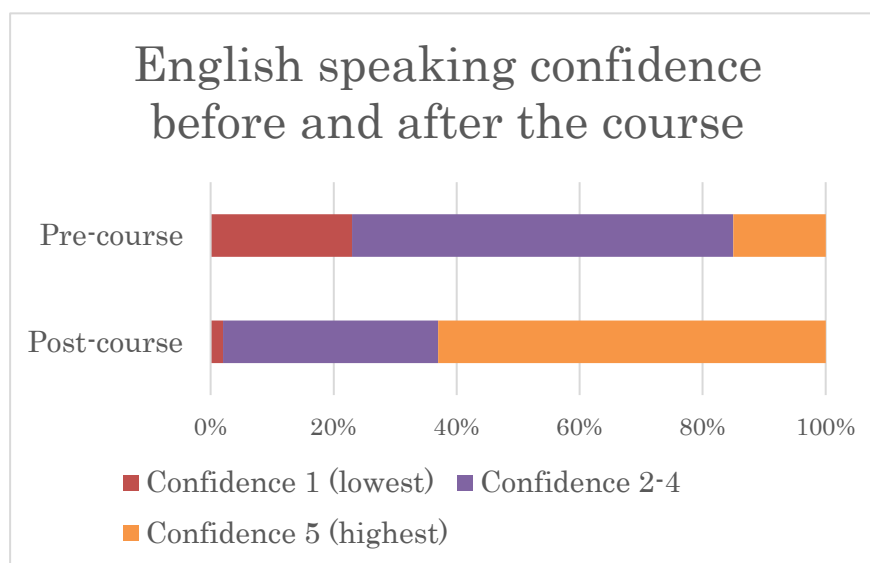
Summary of key educational features

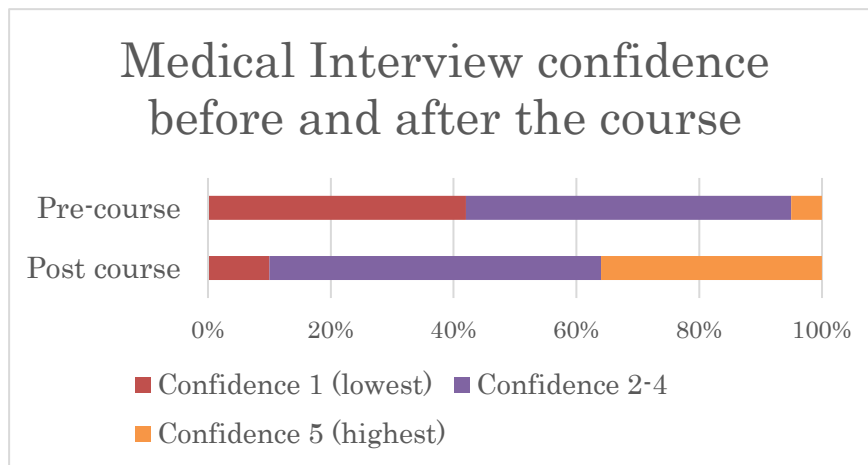
- Prioritises speaking skills and application of medical skills in English for all students
- Uses real-life clinical scenarios with native-English-speaking simulated patients
- Delivers authentic English clinical consulting frameworks in an evidence-based format to maximise learning and engagement
- Enhances student recall and performance through post-feedback repetition, with protected consolidation time
- Actively promotes telemedicine skills and clinical reasoning skills
- Students demonstrate team working and support peers

Student achievement outcomes

In 2019, **94% of student self-rated scores (in reading/writing/speaking) improved in one area after the course, and 80% of students improved in two or more areas.**

Students self-rated their confidence through a Likert scale of 1 (least confident)–5 (most confident) with the following results:





Student satisfaction

- This course is highly valued by students, receiving exceptional student feedback (Supplement 1).
- **In a recent survey investigating innovative and engaging teaching at FMU, this course was one of the most frequently named courses by students.**
- **In this survey, 24% of Year 4 students rated this course as the most intellectually stimulating/exciting/where they learnt something new out of all their teaching so far.**
- Many students have commented that they wish to have more experiences like this, and particularly value the opportunity to speak with native English speakers and apply authentic clinical skills in a supportive environment.

Update 2022

In addition to the established format described above, the 2022 course featured four new international simulated patients, three of whom were UK based and one Fukushima resident originally from the USA. This course additionally supported a modified final session titled 'Culture in the Clinic', a bilingual interactive session focused on cultural differences in healthcare, with videos from doctors experienced in both Japanese and international healthcare settings sharing their experiences and a live question and answer session. This session showcases the value of international experience and facilitates real world experience with critical evaluation and reflection.

References:

1. Main CJ, Buchbinder R, Porcheret M, Foster N. Addressing patient beliefs and expectations in the consultation. *Best Pract Res Clin Rheumatol*. 2010;24(2):219-225. doi:10.1016/j.berh.2009.12.013

多職種連携授業

2022年9月26日(月)1限目～6限目に看護学部4年生(83名)と医学部4年生(133名)が合同で多職種連携授業を行いました。昨年度までは看護学部からは希望者だけが参加していましたが、看護学部4年生全員が参加しての授業は初めてでした。医学部生4名と看護学部生2名、または医学部生と看護学部生各3名ずつのグループを作り、6グループずつ4つの教室(S311(94)、S415(100)、化学・微生物学・免疫学実習室、災害医療産業棟7階会議室)に分かれ、呼吸苦を訴える新型コロナウイルス感染症の患者さんのケアについて学修しました。それぞれの部屋に教員(医学部・看護学部・保健科学部)が数名ずつファシリテータとして参加しました。時間割・内容は以下の通りです。

時間	内容
9:00～9:30	オリエンテーション
9:30～12:00	アイスブレイキング(自己紹介等) グループワーク(1) コロナ患者さんの治療やケアで求められる 多職種連携
昼 食	
13:00～14:55	グループワーク(2) ロールプレイ 各グループ①～③のいずれかを選択 ① 呼吸管理チーム ② 早期リハビリテーションチーム ③ 家族ケアチーム
休 憩	
15:05～15:20	グループワーク(1)(2)の発表・質疑応答
休 憩	
15:30～16:00	グループワーク(3) チームワークの振り返り
16:00～16:20	参加教員からのコメント 全体まとめ

臨床実習入門

「臨床実習入門」は、「医療と社会」「症候論とケーススタディ」「プライマリケアと地域医療」とともに「医療入門1」を構成する4つのユニットのうちの一つです。OSCEと臨床実習(BSL)に先立って臨床技能を確実に修得するための科目で、医療面接、頭頸部、胸部、腹部、四肢脊柱、神経の各診察方法、バイタルサインの取り方、救急蘇生術、心電図、採血、直腸診、乳房診察、ガウンテクニックを学びます。医療人育成・支援センターでは毎年、医療面接実習と採血の授業を担当しています。

医療面接実習

夏休み前に行われる医療面接実習では、医療面接の進め方について講義を受けた学生が一人一人、模擬患者(SP)さんを相手に10分間の医療面接を行い、自身の振り返り、同級生からのフィードバック、そして教員からのフィードバックを経て、よくできた点と今後の課題を把握します。医療人育成・支援センターの教員の他に、OSCEで医療面接課題を担当する評価者の先生方にご参加いただきました。

SP演習

OSCE前の医療面接練習として夏休み後に行われたSP演習は、医療面接実習での反省点をもとに、学生が一人一人様々な主訴を持つSPさんと10分間の面接を行い、SPさんからフィードバックを受けました。患者さんが自分の面接をどのように感じているのか直接聞ける機会は医師のキャリアにおいてほとんどなく、貴重な学修機会とすることができます。2022年度は3年ぶりにSPさんとの対面練習でした。

採血実習

毎年健康診断で採血されている学生が、初めて針をもって、シミュレータの腕から採血をする実習です。教員の指導を受けながら、採血前に確認すべきことの聞き取り、採血のための道具をセット、清潔を保った安全な採血及びごみの分別がスムーズにできるよう、二人一組となり練習しました。

医療入門 2

「医療入門 2」は、OSCE と CBT に合格した 4 年生が、臨床実習の開始前に重要事項を総復習し、スキルを補強する科目です。その中で医療人育成・支援センターは、高度なスキルを要する医療面接、症例のプレゼンテーション、臨床実習での学習方法の授業を行いました。

2022 年 10 月 6 日「行動変容を引き出す医療面接」

担当教員 青木俊太郎

患者さんに行動変容を促すために、医師がどのようなコミュニケーションをとると良いか？ についてのレクチャーを行いました。情報伝達の仕方や患者さんの動機を引き出す質問の仕方などについてのグループワークを行いました。

2022 年 10 月 6 日「悪い知らせを伝える医療面接」

担当教員 亀岡弥生

「悪い知らせ」とは、将来への見通しを根底から否定的に変えてしまう知らせのことです。患者さんへのがんの告知を想定して、言葉による侵襲を与えることなく、どう伝えるべきなのか、「SPIKES」の原則を共有し、実際の面接の様子を DVD で視聴しました。

2022 年 10 月 17 日「症例プレゼンテーション」

担当教員 安田恵

医療現場では様々なプレゼンテーションを行う必要がありますが、その中でも外来や回診で上級医に報告する際に行われるショートプレゼンテーションに関するレクチャーを行いました。実際にどのようにプレゼンテーションするのが良いかについてのグループワークも行いました。

2022 年 10 月 17 日「臨床実習の学習リソース」

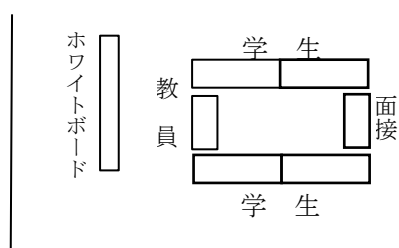
担当教員 諸井陽子

臨床技能手技のトレーニング施設である「スキルラボ」について、利用方法や設置している医療機器・シミュレータの紹介と、本学で導入している臨床実習学習コンテンツ（moodle、Procedures CONSULT、今日の臨床サポート、UpToDate）の案内を行いました。また、臨床実習中に起こりうる SNS 上での問題についてオンライン上で意見交換しました。

BSLプライマリーコースの医療面接実習

2011年度より医学部5年生の臨床実習(BSLプライマリーコース)において、模擬患者(SP)との医療面接を学習するプログラムを実施しています。新規外来患者との医療面接を行う中で、診断に必要な情報を取得するための「臨床推論」と、慢性疾患患者の生活上の行動変容を促す「生活指導」、患者さんに悪い知らせを伝える「告知」などの応用的な医療面接のスキルを身につけることを目的としています。「福島医大模擬患者の会」の会員(以下SP)に模擬患者をしてもらい、学生と医療面接を行いました。

スキルラボ・アドバンス内配置



医療面接の内容

1班6名から最大8名を対象に実施しました。最初の1~2名に対して教員が臨床推論のプログラムを行い、後の5~6名を従来の医療面接シナリオで行いました。2022年9月までは午後の時間に演習を行い、2022年10月からは午前中に臨床推論シナリオの演習をそれぞれの教員独自の様々なシナリオを用いて行い、午後は生活指導と告知のシナリオを利用した模擬患者さんとの演習を行いました。

症例プレゼンテーション

臨床推論を担当した学生は、指導医に対する症例プレゼンテーションをその場で考え、指導医に見立てた教員に対してプレゼンテーションを行いました。

模擬患者さんとの実習

シナリオ	学生	概要
臨床推論シナリオ	2名	頭痛や全身倦怠感などのシナリオを用いて8分で初診患者の問診を行う。患者役は教員が行う。問診終了後に、教員主導で学生全員に対して鑑別診断から確定診断への流れについて考える。
生活指導・告知シナリオ	5~6名	生活指導および告知のシナリオを用いて10分で面接を行う。患者役はSPが行う。医療面接終了後にSPを含めて振り返りを行う。マハム・スタンヨン先生による英語によるフィードバックも実施する。

Moodle を用いた臨床実習評価（自己評価および教員評価）

自己評価は、自己指導型の学習活動や自己改善のために、自分の弱点だけでなく強みを特定するのに役立ち、生涯学習における省察の要素として重要です。自分の弱点を理解することで、学生は何を学ぶ必要があるかを決定し、自分の強みを知ることで自信を持って前進することができます。医学生は、学習や実習中に常にパフォーマンスを向上させるために、自分自身の学習ニーズを特定することが期待されています。そのため、正確で継続的な自己評価は、特に実習中の医学生にとって重要なスキルです。福島県立医科大学での医学教育改革の必要性から、私たちは提案されたツールを導入し、学生の自己評価と教員評価を促進し、臨床実習プロセスを改善するためにルーブリックに基づく評価を行いました。同時に、オンライン学習管理システムである Moodle に基づく評価ツールを開発しました。これにより、学生や教員が評価を完了しながら、学習目標や教育目標を確認できるようになりました。この変更は、臨床実習を開始する 4 年生医学生向けに 2018 年に実施されました。この評価ツールを使用して、どのように学生が自分の強みと弱点を特定したかを調査する必要があります。

福島県立医科大学の医療人育成・支援センター（CMECD）の BSL では、学生は模擬患者と医療面接を行い、同日に担当教員と学生自身が評価を提出します。そこで、教員の評価と学生の自己評価の一致を調べ、今後の課題を特定して日本医学教育学会に報告しました（Tang Z, et al. Fukushima J. Med. Sci. 69:21-28, 2023）。

オーディエンス・レスポンス・システム

～TurningPoint®の活用～

講義型の授業は同時に多人数に対して知識を供与できるが、学生がどの程度、授業内容を理解しているかを教員は把握しがたい。また、教員は学生のニーズや興味を捉えているかがわからず、教員から学生への一方的な知識の押し付けになってしまう可能性もある。

医療人育成・支援センターでは、2010年より学生一人一人の意見を回収できるオーディエンス・レスポンス・システム（ARS）を導入し、医学部および看護学部の授業、臨床研修医向けのセミナー、附属病院内の講演会等での活用をサポートしている。

1. システムの概要

本学ではARSとしてTurningPoint®(KEEPAD JAPAN株式会社製。<http://www.KEEPAD.com/jp/index.php>)を利用している。専用ソフトで作成した質問のスライドに、名刺サイズのクリッカー（レスポンスカード）で回答すると、結果が瞬時に集計されグラフに表示される。授業に参加している教員と学生がその場で結果を共有することができ、全体の意見を踏まえた討論を実施し、学生の理解度に合わせた授業を展開することが可能になっている。



貸出用ARS一式
レスポンスカード 120枚
USBレシーバー 1台



レスポンスカード
（回答送信器）



USBレシーバー
（回答受信器）

※レスポンスカードは最大360枚まで対応可能です

2. 利用実績

利用年度	利用内訳（件数）				利用件数
	医学部授業	看護学部授業	講習会・セミナー	その他	
～2021年度	63	7	71	33	174
2022年度	0	0	2	0	2
合計	63	7	73	33	176

3. 利用方法・貸出・予約について

機器の予約、利用方法は医療人育成・支援センター スキルラボ管理室(内線 3387)までお問合せください。スライドの作成等、ご不明な点は個別に対応しています。詳細は医療人育成・支援センターのホームページ(http://www.fmu.ac.jp/home/cmecd/turning_point.html)に掲載しておりますのでご参照ください。

出前講座

中学校、高等学校からの要望に応じて、大学教員が各学校に出向き、将来、医学や医療に従事することに関心を持っている中高校生を対象に、医学、看護学、理学療法学、作業療法学、診療放射線科学及び臨床検査学に関する講義を行っている。医学や医療に関する多彩な話題を提供する出前講座は、医療人を志す高校生の医学や医療への興味関心を更に高め、本学各学部への進学意識や学習意欲を向上させる良い契機となっている。

【実施状況】

2022 年度 ※医学部に関するもの

	派遣先	タイトル／講師名
1	福島県立橘高等学校	「本県の医療の課題とこれからの医療について」 【講師 大谷 晃司】
2	福島県立磐城高等学校	「仕事内容及び医療職としての使命感や働き甲斐について」 【講師 見城 明】
3	福島県立会津学鳳高等学校	「最先端医療と会津中央病院と本学との取組みから考える地域医療の在り方について」 【講師 柴田 昌彦】
4	福島県立安積高等学校	「法医学について」 【講師 黒田 直人】
5	福島県立白河旭高等学校	「医療を志す皆さんへー医療従事者に期待されていることー」 【講師 倉澤 茂樹】
6	福島県立会津学鳳高等学校	「在宅医療を始めとする地域医療について」 【講師 鎌田 一宏】
7	福島県立会津高等学校	「総合診療医について」 【講師 山中 克郎】
8	福島県立 ふたば未来学園高等学校	「医学・医療を大学で学ぶということは？」 【講師 大谷 晃司】
9	福島県立安積高等学校	「坪倉先生と学ぶ医療深掘りゼミ」 全 12 回 【講師 坪倉 正治】



学校見学

福島県立医科大学への理解を深め、医療系大学への進学意欲につなげるため、中学校や高等学校等の要望により大学見学を受け入れている。施設見学や模擬講義など、学内教員の協力を得て実施している。

2022年度は7校の大学見学を受け入れ、医学部では6校を担当した。

【実施状況】

2022年度 ※医学部として担当したもの

	学校名	見学者
1	福島県立会津学鳳高等学校	3年生
2	日本大学東北高等学校	1、2年生
3	福島県立磐城高等学校	1～3年生
4	聖光学院高等学校	1年生
5	福島県立会津学鳳中学校	3年生
6	水戸葵陵高等学校	1、2年生



2) 臨床医学教育研修部門



ご挨拶

臨床医学教育研修部門の取組

臨床医学教育研修部門大谷 晃司

2022年度の臨床医学教育研修部門の活動報告の詳細は、別項の通りです。2022年度も2021年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、従来の活動が全くと言ってよいほどできませんでした。しかし、新型コロナウイルス感染症にも慣れてきたせいでしょうか、与えられた環境でさまざまな活動を行って参りました。

2018年10月からはじまったBSL (bed side learning) の72週化も、制度としての実施については何とか軌道に乗ってきましたが、分野別医学部認証における指摘を踏まえ、2021年度後半から、3年計画でBSLの更なる改変が始まりました。主な内容は、主要科目である内科、小児科、産婦人科、精神科を4週間連続での実習が行えるようにすることです。そのためには、第1クールで行われていた会津医療センターの実習を第2クールに移動したりとか、2週間行っていた実習を1週に、あるいは、4週間で行っていた実習を2週に短くして第2クールから第1クールへ移動させたりとか、関係各科には多大なるご迷惑をかけております。それによって、小児科、産婦人科は、第1クールか第2クールどちらかで4週間必修の実習が組めるようになり、第2クールで、内科、外科等の選択必修実習を4週間×2を確保出来るようになりました。以上のように、外枠は着実に変わってきているのですが、臨床実習の中身はどうでしょうか？

2022年度から、Post-CC OSCE が共用試験化、平たく言えば、医学部卒業要件になり、受からなければ卒業できないという試験となりました。福島医大では、共用試験機構の3課題と大学独自の3課題で11月に行ったのですが、6課題全てに合格したものは45.7%であり、散々な出来でした。問題点として上がった点は、総論としては、臨床実習がきちんと行われていれば、問題ないであろうと思われた内容が試験で出来なかったのが、臨床実習の内容が問題ではないか？ということでした。一方、この学年の医師国家試験合格率は100%を達成しており、知識と技能や態度の違い、あるいは、知識の深さ（選択肢は選べるが、自らの行動や言葉でその知識を活かすことができない）の問題等、いろいろと考えさせる結果でありました。

附属病院の臨床研修に関しては、附属病院に設置した医学部の家庭医療学講座と附属病院の総合内科からなる総合診療医センターでの研修の必修化が順調に進んでいるようです。

以上のように、臨床医学教育研修部門は、臨床医学という枠組みから、学部教育、卒後臨床教育を見つめ、改善を図っていきます。

2022 年度

2022 年

- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 4月1日 | 研修医オリエンテーション（～9日） |
| 4月2日 | 2022年度福島県臨床研修医合同オリエンテーション（オンライン開催） |
| 4月25日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 5月7日 | マイナビレジデント 対面式説明会（仙台） |
| 5月22日 | イーレジデント オンライン説明会 |
| 5月23日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 5月24日 | 指導医セミナー（公立相馬総合病院） |
| 6月3日 | 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島（オンライン開催） |
| 6月4日 | 専門研修プログラム合同説明会（オンライン開催） |
| 6月9日 | エムスリーキャリア オンライン説明会 |
| 5月28日 | 第50回福島アドバンスド・コース（オンライン開催） |
| 6月13日 | イーレジデント 専門医研修オンライン説明会（～19日） |
| 6月20日 | レジナビ オンライン説明会（～24日） |
| 6月24日 | 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京（オンライン開催） |
| 6月27日 | 卒後臨床研修管理委員会、研修医意見交換会 |
| 6月29日 | マイナビレジデント オンライン説明会 |
| 7月1日 | マッチング説明会（福島医大） |
| 7月6日 | マイナビレジデント オンライン説明会 |
| 7月25日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 7月30日 | 専門研修プログラム合同説明会（オンライン開催） |
| 8月3日 | 地域実習Ⅱの引率：いわき市コース1 |
| 8月4日 | 地域実習Ⅱの引率：須賀川・鏡石・天栄・玉川コース |
| 8月9日 | 地域実習Ⅱの引率：白河コース |
| 8月19日 | 地域実習Ⅱの引率：会津・南会津コース |
| 8月20日 | 研修医サマーセミナー |
| 8月23日 | 地域実習Ⅱの引率：公立藤田病院コース |
| 8月26日 | 地域実習Ⅱの引率：相双コース |
| 9月3日 | 第51回福島アドバンスド・コース（オンライン開催） |
| 9月23日 | 第14回診断推論セミナー開催（オンライン開催） |
| 9月26日 | 卒後臨床研修管理委員会 |
| 9月28日 | 地域実習Ⅱの引率：県南コース、いわき市コース2・3 |
| 9月29日 | 福島県地域医療症例検討会（オンライン開催） |
| 9月30日 | 地域実習Ⅱの引率：公立小野町総合病院コース |
| 10月2日 | レジナビ 対面式説明会（仙台） |
| 10月8日 | 福島県主催福島県医師臨床研修指導医養成講習会（～9日） |

10月20日	医学部4年生との未来を語る会
10月24日	卒後臨床研修管理委員会、研修医意見交換会
11月5日	第52回福島アドバンスド・コース（オンライン開催）
11月13日	イーレジデント オンライン説明会
11月28日	卒後臨床研修管理委員会
12月14日	指導医セミナー（公立藤田総合病院）
12月14日	エムスリーキャリア オンライン説明会
2023年	
1月7日	福島県立医科大学主催臨床研修指導医講習会（～8日）
1月11日	指導医セミナー（星総合病院）
1月18日	指導医セミナー（大原総合病院）
1月19日	指導医セミナー（公立岩瀬病院）
1月23日	卒後臨床研修管理委員会、研修医意見交換会
2月8日	指導医セミナー（福島赤十字病院）
2月9日	指導医セミナー（医療生協わたり病院）
2月13日	卒後臨床研修プログラム検討会議
2月16日	指導医セミナー（竹田総合病院）
2月25日	腹部エコーセミナー
2月27日	卒後臨床研修管理委員会
3月3日	福島県臨床研修病院ネットワーク対面式合同ガイダンス（福島医大）
3月11日	第53回福島アドバンスド・コース（オンライン開催）
3月19日	レジナビ 対面式説明会（東京）
3月20日	卒後臨床研修管理委員会
3月22日	エムスリーキャリア オンライン説明会

4年生との未来を語る会

事業内容と目的:臨床実習が始まる4年生に対して、スムーズに実習に入ることが出来るように、臨床系教員との交流を図るため実施。

2022年度は、各講座や研修部門の責任者や担当者のほか、若手医師や臨床研修医との交流会の場を設け、本学附属病院の研修内容の特徴や優位性、職場の雰囲気などを伝え、多くの卒業生に本学附属病院の研修医として登録してもらうことを目的に実施した。

開催年月日	場所	参加者	
		学生(学年人数)	教員
2020年度	中止		
2021.10.15	福島医大 8号館	104名	83名
2022.10.20	福島医大 6号館・8号館	110名	63名



研修医説明会

1. 臨床研修医募集に関する説明会

民間企業が主催する説明会（レジナビ等）への参加と、福島県が主催する説明会への参加に大きく区別される。特に2011年度からは、東日本大震災を受けて、単に臨床研修医募集を目的とするだけでなく、福島の実状を理解してもらおうという意味も含め、大阪や福岡で開催されるレジナビにも参加していた。

2020年度と21年度は新型コロナウイルスの影響により、オンライン説明会が主体だったが、22年度は対面式説明会への参加も復活した。

開催年	月	日	説明会名称	形式	事業主体	参加者数
2022	5	7	マイナビレジデント（仙台）	対面式	ネットワーク	122
〃	5	22	イーレジデント	オンライン	ネットワーク	144
〃	6	9	エムスリーキャリア	オンライン	医大病院	6
〃	6	20	レジナビ	オンライン	ネットワーク	599
〃	6	29	マイナビレジデント	オンライン	ネットワーク	89
〃	7	6	マイナビレジデント	オンライン	医大病院	10
〃	10	2	レジナビ（仙台）	対面式	ネットワーク	73
〃	11	13	イーレジデント	オンライン	ネットワーク	40
〃	12	14	エムスリーキャリア	オンライン	医大病院	25
2023	3	19	レジナビ（東京）	対面式	医大病院	32
〃	3	22	エムスリーキャリア	オンライン	医大病院	11

ネットワーク：福島県臨床研修病院ネットワーク

医大病院：福島県立医科大学附属病院

※事業主体がネットワークの場合、参加者は各病院の合計数を記載している



2. 専攻医（いわゆる専門医研修）募集に関する説明会

専門医研修については、各診療科（各基本領域プログラム）が主体となり、医局説明会等を開催し、募集活動をおこなっている。

2023年度の福島医大附属病院の専門研修プログラム新規登録者は、合計64名であった。

医療人育成・支援センターでは、各基本領域プログラムにおける採用活動と連携し、オンライン説明会を開催するなど、広く応募を呼びかけている。

開催年月日	説明会名称	事業主体	開催場所	参加者数
2018/6/17	レジナビフェア 2018 東京 ～専門研修プログラム～	福島医大光が丘協 議会	東京ビッグサイト (東京都)	3
2018/5/12	新専門医制度 専門研修プログラム説明会	福島医大附属病院 医療人育成・支援 センター	福島医大 8号館S301	31
2018/6/23			東京国際フォーラム (東京都)	6
2019/5/18	新専門医制度 専門研修プログラム説明会	福島医大附属病院 医療人育成・支援 センター	福島医大 8号館S301	8
2019/6/29			ステーションコンファレンス (東京都)	13
2020/6/6	専門研修プログラム合同説 明会（オンライン開催）	〃	オンライン	50
2021/6/5	専門研修プログラム合同説 明会（オンライン開催）	〃	オンライン	66
2022/6/4	専門研修プログラム合同説 明会（オンライン開催）	〃	オンライン	26
2022/7/30	専門研修プログラム合同説 明会（オンライン開催）	〃	オンライン	13

福島県臨床研修病院ネットワークの活動

福島県は医師不足が深刻な状況を踏まえ、2010年11月に「地域医療再生計画」を策定し、各種施策を展開している。その一環として、県は本学に対する補助事業として「福島県臨床研修病院ネットワーク」を2011年度から立ち上げ、当医療人育成・支援センターが事務局として運営している。活動は多岐にわたっている。

1. 臨床研修医招聘事業

1) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 東京

首都圏の医学生に対する臨床研修病院の説明会として、毎年6月に開催している。2012年からは、福島県とタイアップして、県の修学資金生に対する面談も合わせて行っている。新型コロナウイルス感染症蔓延化以後の2020年からはオンラインでの開催としており、参加対象者学生も首都圏の医学生のみならず、広く参加を呼びかけている。参加学生数等は、以下のとおり。

2022年度は6月24日にオンラインで開催した。

年度	参加医学生	県内臨床研修病院参加数
2020	103名	18病院
2021	20名	19病院
2022	79名	18病院

2) レジナビフェア等への参加

各地で開催される医学生対象の臨床研修病院合同説明会に積極的に参加している。詳細は、別項の研修医説明会参照。

3) 福島県臨床研修病院ネットワークガイダンス in 福島の開催

県内研修病院の周知を目的として、主に5年生を対象に開催している。

県内全ての研修病院によるプレゼンテーションをはじめ、ネットワークの活動等の紹介も行う第1部と、立食パーティー形式の第2部の構成を基本として開催していたが、新型コロナウイルス感染症蔓延化以後の2020年からは、オンラインで開催しており、2022年度は6月3日に実施した。

年度	参加医学生	県内臨床研修病院参加数
2020	83名	18病院
2021	132名	19病院
2022	68名	18病院

4) 福島県臨床研修病院合同ガイダンス

2009年度まで春期休業中に福島県主催で行われていた福島県内の臨床研修病院合同ガイダンスを2010年度から、ネットワーク共催という形で開催している。2022年度は3月3日に対面式で開催した。詳細は、別項の福島県地域医療を考える懇談会参照。

5) ふくしま“絆”医学生臨床実習支援事業

2016年度より、福島医大以外の医学生が県内臨床研修病院で学外臨床実習を行う場合、一人あたり5万円の助成を行っている。

年度	助成件数	大学数	病院数
2020	8名	1大学	2病院
2021	17名	3大学	6病院
2022	47名	7大学	10病院

2. 臨床研修医育成事業

1) 臨床研修医合同オリエンテーション

2012年度より、4月の第1週の土日に、県内で臨床研修を開始する全ての研修医を集めた合同オリエンテーションを開催している。初日は、福島県臨床研修病院ネットワークや県内で開催しているFACEといった勉強会の紹介、ネットワークが県内の臨床研修医全てに提供しているEBM情報ツールであるDynaMedの使い方の紹介、また懇親会を行っている。

翌日は、福島県ACLS協会の全面支援のもと、BLSを開催している。

新型コロナウイルス感染症蔓延化以後の2020年度以降は、感染拡大防止のため、オンラインで開催した。

2) 福島アドバンスド・コース (Fukushima Advanced Course by Experts : FACE)、診断推論セミナーの開催

温泉付きの1泊2日の勉強会として、全国的に有名となったFACEや診断推論セミナーを開催している。

2022年度も2020年度、2021年度と同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインで開催した。(別項、**福島・良き医師を育むプロジェクト**参照)

3) ACLS

県内の臨床研修の質の向上と均一化をはかる一貫として、NPO法人福島県ACLS協会の全面的な支援のもと、2012年度から、BLSを合同オリエンテーションで実施し、向こう1年以内でのACLS受講を薦めている。

県内臨床研修医のACLS受講実績は、以下の通りである。

ACLS取得状況

No.		在籍者数		受講者数		受講率	
		1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
1	福島医大附属病院	12	16	12	11	100.00%	68.75%
2	大原総合病院	8	8	0	8	0.00%	100.00%
3	わたり病院	3	2	3	0	100.00%	0.00%
4	福島赤十字病院	8	8	0	8	0.00%	100.00%
5	公立藤田総合病院	3	5	0	5	0.00%	100.00%
6	太田西ノ内病院	4	10	4	10	100.00%	100.00%
7	星総合病院	8	8	8	8	100.00%	100.00%
8	総合南東北病院	14	6	14	6	100.00%	100.00%
9	寿泉堂総合病院	5	6	5	6	100.00%	100.00%
10	公立岩瀬病院	3	1	3	1	100.00%	100.00%
11	白河厚生総合病院	6	6	5	5	83.33%	83.33%
12	竹田総合病院	12	12	11	12	91.67%	100.00%
13	会津医療センター	5	5	5	0	100.00%	0.00%
14	会津中央病院	4	4	4	0	100.00%	0.00%
15	いわき市医療センター	12	12	0	11	0.00%	91.67%
16	福島労災病院	2	0	0	0	0.00%	0.00%
17	公立相馬総合病院	2	3	0	1	0.00%	33.33%
18	南相馬市立総合病院	2	2	0	0	0.00%	0.00%
19	常磐病院	2	0	0	0	0.00%	0.00%
合計		115	114	74	92	64.35%	80.70%

*2023年3月時点

5) レジデントスキルアップセミナー

2012 年度から開催している合同オリエンテーション及びFACEや診断推論セミナーは、研修医の交流の場を設けて、自分の研修の進捗を客観的に評価し、研修のモチベーションを高めてもらうことを目的としているが、必ずしも県内臨床研修医が多く集まるわけではない。

また、臨床研修医からは、合同オリエンテーションだけでなく、研修医が集まる場を提供して欲しいという要望もあり、本事業を2012年度から実施している。

2022年度は、心エコーセミナーについては開催できなかったものの、腹部エコーセミナーは3年振りに開催することが出来た。2023年2月25日にコラッセふくしま 4階多目的ホールで開催した当該セミナーには、24名の県内臨床研修医が参加した。参加者からは、「一人一人指導をしていただき、解剖を理解しながら手技を修得できた」「直接時間をかけて教えて頂けて、大変勉強になりました」など、高評価をいただき、充実した研修となった。

また、医療人育成・支援センター主催の福島県地域医療症例検討会は、福島県医師会に協力いただき、2022年10月29日にオンラインで開催し、臨床研修医による素晴らしい症例発表が行われた。多くの方々から様々なご意見をいただき充実した検討会となった。

内容	形式	年月日	参加人数
心エコーセミナー	未実施		
腹部エコーセミナー	対面式	2023年2月25日	24名
福島県地域症例検討会 (医療人主催)	オンライン	2022年10月29日	発表者12名、聴講者31名



※2022年度の腹部エコーセミナーの様子

6) 短期海外研修

米国日本人医師会による協力のもと、2014年度から年2回、県内での選考活動を行った上で、希望者を派遣していた。2020年度以降は新型コロナウイルス感染拡大により実施していなかった。しかし、2023年度9月に開催することが決定した。

(参考)

2019年5月6日～10日 県内研修医3名

2019年12月9日～13日 県内研修医3名



※写真は、2019年度の様子。

3. 研修指導強化事業

1) 指導医講習会

2004年度から実施されている医師臨床研修制度では、研修医を指導する“臨床研修指導医(いわゆる指導医)”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。

福島県臨床研修病院ネットワークの事務を担当している臨床医学教育研修部門は、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島医大主催の臨床研修指導医講習会を共催・支援している。

詳細は、別項参照。

2) 指導医セミナー

福島医大ブランド戦略の活動の一環として、県内の教育協力病院における教育力アップのために、2019年度から学部教育や研修医教育等に関する話題提供の講演を行っている。2020年度からは、福島医大臨床教授・臨床准教授の更新案件（3年間に2回以上の講演聴取が必須）となっている。2022年度の実績は、以下の通り。

開催年月日	開催場所
2022年5月24日	公立相馬総合病院
2022年6月10日	光が丘協議会総会
2022年12月13日	いわき市医療センター
2022年12月14日	公立藤田総合病院
2023年1月11日	星総合病院
2023年1月18日	大原総合病院
2023年1月19日	公立岩瀬病院
2023年2月8日	福島赤十字病院
2023年2月9日	医療生協わたり病院
2023年2月16日	竹田総合病院

4. 広報事業

以下のような事業を行っている。

1) ホームページの更新、臨床研修医メーリングリストの作成

2) 福島県臨床研修病院ガイドブックの作成

3) ネットワーク通信の発行

月に1回、ネットワーク通信として福島県内外の医学生や臨床研修医に送付し、ネットワークの各種事業、県内臨床研修病院の病院見学や各種イベントの広報や紹介を行っている。

4) 臨床研修病院のPRコーナーの設置など

福島医大11号館第2臨床講義室前に県内臨床研修病院のPRコーナーを設け、パンフレットを置いている。

また、各病院のイベント等の紹介を学内の医療人育成・支援センター掲示板を使い、適時掲示している。

5. 臨床研修医採用状況

臨床研修制度開始以来の県内・医大の臨床研修医マッチングと採用実績は、以下の通りである。
2022年度採用の臨床研修医は115名が県内臨床研修病院にマッチしている。

福島県臨床研修病院ネットワークの活動が、各病院の努力と相まって、本県の医療状況の改善に寄与することが期待されている。

年度		2020	2021	2022
福島県臨床研修医採用数		101	116	115
最終採用者数	福島医大卒	76	75	74
	福島医大以外卒	25	41	41
	県内出身	56	46	50
	県外出身	45	70	65
福島県マッチング総数		101	113	110
(うち県内出身)		46	46	56
福島医大	6年生数 (採用年度の前年度)	126	125	129
	県内出身	48	39	34

※各年度4月1日現在の数値

6. 参考；福島医大の学生の県内臨床研修病院認知度調査

(2022年10月 福島医大4年生)

県内研修病院名	よく知っている	名前は 聞いたことがある	知らない
大原総合病院	35	87	0
わたり病院	13	86	23
福島赤十字病院	21	97	4
公立藤田総合病院	9	93	20
太田西ノ内病院	17	85	20
星総合病院	22	96	4
総合南東北病院	16	91	15
寿泉堂総合病院	12	92	18
公立岩瀬病院	8	88	26
白河厚生総合病院	8	88	26
竹田総合病院	14	92	16
会津医療センター	21	94	7
会津中央病院	15	83	24
いわき市医療センター	14	88	20
福島労災病院	9	70	43
常磐病院	7	65	50
公立相馬総合病院	5	80	37
南相馬市立総合病院	6	73	43

福島・良き医師を育むプロジェクト

各臨床研修病院で研修している研修医同士が交流しながら勉強する機会が少ないことから、2009年より、福島アドバンスドコース（FACE: Fukushima Advanced Course by Experts）と診断推論セミナーを開催している。交流を通じて、研修医同士が自分の研修内容や実績を客観的に評価し、今後の研修の励みとするとともに、指導医の交流により、県内の研修の質の向上を目的として開催している。当初は、県内の研修医を対象に企画していたが、回を重ねるたびに県外の研修医や県内外の医学部生が集まり、切磋琢磨の場のみならず、福島県の臨床研修の魅力を伝える場にもなっている。

会場は、財団法人太田総合病院の全面的な支援をいただき、磐梯熱海の緑風苑で開催しており、温泉付きの勉強会として、全国的にも有名な勉強会となっている。

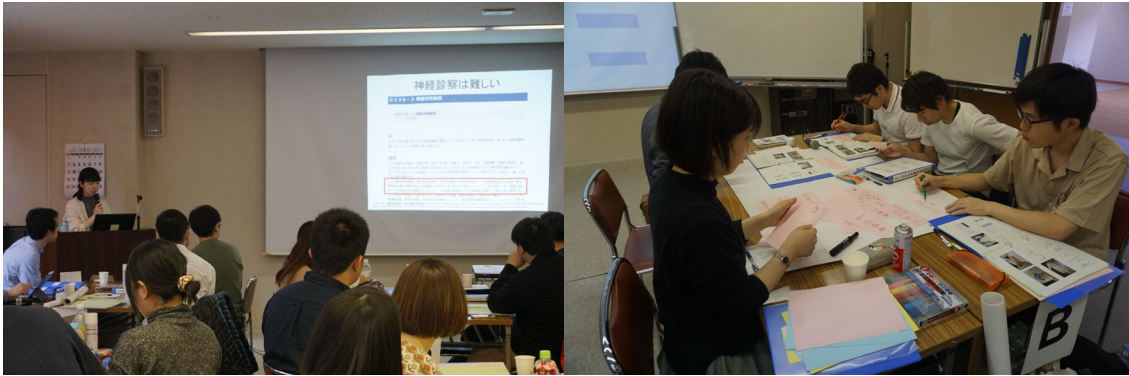
2020年度以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの開催となっている。

1. 福島アドバンスドコース

【2022年度】

回数	開催年月日	テーマ及び講師
第50回	2022年5月28日	『教育症例から学ぶ「攻める」問診&身体診察』 会津医療センター附属病院 山中克郎先生 継醫院 継仁先生 セコメディック病院 宇藤薫先生 National Medical Clinic 田村謙太郎先生
第51回	2022年9月3日	『運動器診療のコツ』 福島県立医科大学 大谷晃司センター長 会津中央病院 反町光太郎先生 福島県立医科大学 亀田拓哉先生、新田夢鷹先生
第52回	2022年11月5日	『フィジカル診断エクセレンス』 群星沖縄臨床研修センター 徳田安春先生 セコメディック病院 宇藤薫先生
第53回	2023年3月11日	『地域医療』 島根大学医学部附属病院総合診療医センター 白石吉彦先生 かしま病院 石井敦先生

回数	学生		臨床研修医		医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外		
第50回	11	1	34	10	55	111
第51回	1	0	13	5	64	83
第52回	2	2	18	4	48	74
第53回	0	0	3	0	25	28



※写真は 2019 年度の様子です。

2. 診断推論セミナー

	開催年月日	メイン講師
第14回	2022年9月23日	『診断推論 基本』『診断推論 応用』 豊田地域医療センター 野口善令先生 福島県立宮下病院 小野正博先生

回数	学生		臨床研修医		医師	合計
	福島医大	その他	県内	県外		
第14回	1	1	4	4	75	85



※写真は2019年度の様子です。

指導医講習会

2004年度から実施されている医師臨床研修制度において、研修医を指導する“臨床研修指導医（いわゆる指導医）”は、厚生労働省が定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に則った指導医講習会の受講が義務とされている。医療人育成・支援センターは、県主催の福島県医師臨床研修指導医養成講習会と、福島県立医科大学主催の臨床研修指導医養成講習会の実施を実質的に担っている。2022年度の開催実績は、以下の通り。

1. 福島県医師臨床研修指導医養成講習会

2022年度10月8、9日 会場：福島医大

受講人数37名（うち福島医大病院12名）

ディレクター：國分 守（福島県保健福祉部長）

チーフタスクフォース：福井 次矢（東京医大茨城医療センター 病院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院 院長）

羽金 和彦（宇都宮市保健所 所長）

渡辺 直彦（星総合病院 院長）

大谷 晃司（福島県立医科大学 医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（福島県立医科大学附属病院 総合内科教授）

木村 隆（福島県立医科大学 外科研修部門教授）

菅藤 賢治（大原総合病院 総合診療科 部長）

ターニングポイント担当：諸井 陽子（福島県立医科大学医療人育成・支援センター）

事務局：福島県地域医療支援センター（保健福祉部医療人材対策室）

2. 臨床研修指導医講習会

2023年1月7、8日 会場：福島医大

受講人数41名（うち福島医大病院35名）

ディレクター：竹石 恭知（福島県立医科大学附属病院長）

バイスディレクター：福井 次矢（東京医大茨城医療センター 病院長）

タスクフォース：向原 茂明（長崎県壱岐病院 院長）

羽金 和彦（宇都宮市保健所 所長）

渡辺 直彦（星総合病院 院長）

菅藤 賢治（大原総合病院 総合診療科 主任部長）

大谷 晃司（福島県立医科大学 医療人育成・支援センター長）

濱口 杉大（福島県立医科大学附属病院 総合内科教授）

木村 隆（福島県立医科大学 外科研修部門教授）

ターニングポイント担当：諸井 陽子（福島県立医科大学医療人育成・支援センター）

事務局：福島県立医科大学 教育研修支援課研修支援係（医療人育成・支援センター）



※2022年度の講習会の模様

1. 県内研修病院での指導医の割合の現状

	臨床経験 7 年目以上の指導する立場の医師数	指導医講習会受講者数	受講率 (%)	臨床研修病院数
青森県	801	588	73.4	13
岩手県	665	532	80.0	12
宮城県	1,611	1,135	70.4	19
秋田県	712	611	85.8	14
山形県	700	504	72.0	9
福島県	1,156	944	81.6	19
東北 6 県	5,645	4,314	76.4	86

(2022 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率 (%)			
	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年
青森県	79.4	82.5	77.0	73.4
岩手県	83.5	83.3	80.1	80.0
宮城県	69.4	71.0	66.8	70.4
秋田県	76.9	77.4	73.3	85.8
山形県	70.0	74.1	69.9	72.0
福島県	81.1	82.9	80.7	81.6
東北 6 県	76.1	77.7	73.7	76.4

(東北厚生局調べ)

大学 病院	臨床経験 7 年目以上の指導する立場の医師数	指導医講習会受講者数	受講率 (%)
弘前大	221	176	79.6
岩手医大	187	148	79.1
東北大	380	266	70.0
秋田大	153	124	81.0
山形大	188	146	77.6
福島医大	339	305	89.9
東北 6 大学	1468	1,165	79.4

(2022 年 4 月 1 日現在 東北厚生局調べ)

	指導医講習会受講率(%)	
	2010年	2022年
福島医大附属病院	71.5	89.9
大原総合病院	42.1	94.1
太田西ノ内病院	57.0	83.9
星総合病院	53.1	75.0
竹田総合病院	47.3	71.6
いわき市医療センター	16.2	71.1
総合南東北病院	34.2	69.9
公立岩瀬病院	57.1	86.9
福島労災病院	13.0	62.0
医療生協わたり病院	68.4	100.0
寿泉堂総合病院	89.3	75.7
白河厚生総合病院	69.2	95.8
公立藤田総合病院	87.5	87.5
会津中央病院	30.0	70.2
会津医療センター附属病院	77.8	81.6
福島赤十字病院	45.7	84.4
公立相馬総合病院	-	91.6
南相馬市立総合病院	-	100.0
ときわ会常磐病院	-	38.8
福島県平均	53.7	81.6

(東北厚生局調べ)

東北六県の県別に見れば、2022年4月1日における受講率について、本院は大学附属病院としてトップである。これには、年1~2回の指導医講習会を開催していることが大きいと考えられる。県内の研修病院の質の向上のためには、多施設の指導医と交流しながら研修医教育の在り方を考えることができる本講習会はきわめて有意義であり、受講率の低い病院の受講率を上げることが、喫緊の課題である。

臨床研修医に対する支援・教育（メンター制度を除く）

臨床医学教育研修部門の主たる業務の一つが、福島医大附属病院臨床研修医に対する支援や教育である。本項では、メンター制度を除いた本学研修医に対する様々な支援や教育活動について述べる。

1. ステップアップセミナー

毎週火曜日 18:00 から 1 時間程度、主として O J T でできない知識や技能の総まとめを目的として、臨床研修医の希望を取りながら実施している。ステップアップセミナー受講率 70% を臨床研修プログラム修了の必須条件としている。2022 年度の開催実績は別紙のとおり。

2. ACLS

福島医大附属病院では、2011 年度より、福島県 ACLS 協会の全面的な支援の元、福島県内の臨床研修医は、臨床研修終了までに ACLS を取得することを目標とし、2012 年度からは、臨床研修開始時の合同オリエンテーションで B S L を終了し、向こう 1 年以内での ACLS 受講を積極的に薦めている。2022 年度の福島医大附属病院臨床研修医の ACLS 受講者率は、以下の通り。

	在籍者数 (A)	受講修了者数 (B)	受講率 (%)
1 年次	12	12	100.00%
2 年次	16	11	68.75%

3. 臨床研修費用助成

研修医の能力向上促進のため、2011 年度より研修費助成制度を開始した。学会や研修会参加費及び交通費、参考図書やコンピュータの購入経費等を年間 20 万円まで助成している。

	利用額 (円)			利用者率 (%)	総予算の利用額率 (%)
	最低	最高	平均		
2020 年度	52,888	200,000	185,736	30/30=100.0%	557.2/600 万=92.9%
2021 年度	0	200,000	161,721	26/27=96.3%	436.6/540 万=80.8%
2022 年度	0	200,000	173,135	20/22=90.9%	380.8/440 万=86.5%

【2022年度】ステップ・アップ・セミナー

	月日	曜日	内容等	所属	講師
第1回	4月19日	(火)	症例報告への道 Part1. 大谷の場合 Part2.伊関の場合/研修医ミーティング	医療人育成・支援センター他	センター教員、事務局/大谷先生・
第2回	4月26日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生他
第3回	5月10日	(火)	シーネ巻き	整形外科/医療人育成・支援センター	大谷 先生
第4回	5月17日	(火)	研修医ミーティング/インシデントレポート入力について	医療人育成・支援センター	センター教員、事務局
第5回	5月24日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生他
第6回	5月26日	(木)	学術研究集会 (16:30~です)	福島医学会	風間 順一郎 先生 伊関 憲 先生
第7回	5月31日	(火)	心電図の読み方	循環器内科	清水 竹史先生
第8回	6月7日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	濱口 杉大先生
第9回	6月14日	(火)	呼吸器内科セミナー	呼吸器内科	東川 隆一先生
第10回	6月21日	(火)	気管挿管実習/インシデントレポート入力について	救急科	塚田 泰彦先生
第11回	6月28日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生他
第12回	7月5日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	中本 洋平先生
第13回	7月12日	(火)	知っておきたい皮膚疾患の知識	皮膚科	石川 真郷先生
第14回	7月19日	(火)	症例検討会について	救急科	伊関先生他
第15回	7月20日	(水)	CPC (小笠原 啓先生、錫谷 学先生)	リウマチ膠原病内科/病理診断科	
第16回	8月20日	(土)	サマーセミナー (12時30分~17時30分 (予定))	救急科/総合南東北病院	伊関 憲先生 佐藤 直先生
第17回	8月26日	(金)	CPC (齋藤 弘志先生、中岡 勇貴先生)	小児科/病理診断科	
第18回	8月30日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生他
第19回	9月6日	(火)	総合内科勉強会	総合内科	渡辺 綾先生
第20回	9月13日	(火)	病棟でのインスリン療法-Clinical Practice-	糖尿病内分泌代謝内科	田辺 隼人先生
第21回	9月20日	(火)	画像診断について	放射線科	柳沼 佑基先生
第22回	9月21日	(水)	CPC (石渡 有沙先生、中村 剛大先生)	小児科/病理診断科	
第23回	9月27日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生他
第24回	10月11日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生 大山 亜紗美先生
第25回	10月18日	(火)	実技①骨折の整復	医療人育成・支援センター/整形外科	大谷 晃司先生
第26回	10月21日	(金)	CPC (キタロウ イルワン ビン モハド アズラン先生、齋藤 秀一先生)	腎臓高血圧内科/病理診断科	
第27回	10月27日	(木)	福島医学会 ※16:30~	福島医学会	鳥袋 充生先生 河野 浩二先生
第28回	11月1日	(火)	研修医ミニレクチャー	臨床医学教育研修センター	
第29回	11月8日	(火)	実技②胸腔ドレーン	救急科/呼吸器外科	鈴木 剛先生/峯 勇人先生
第30回	11月15日	(火)	児童虐待について	小児科	鈴木 雄一先生
第31回	11月24日	(木)	CPC (橋本 万理先生、水谷 琢先生、中島 理沙子先生)	血液内科/病理診断科	
第32回	11月29日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生 大山 亜紗美先生
第33回	12月5日	(月)	CPC (見城 剛史先生、吉村 圭先生)	救急科/病理診断科	
第34回	12月13日	(火)	研修医ミニレクチャー	臨床医学教育研修センター	
第35回	12月20日	(火)	実技③透折とAライン	MEセンター (臨床工学センター)	出羽 仁技師長
第36回	12月27日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生 大山 亜紗美先生
第37回	1月10日	(火)	研修医ミニレクチャー	臨床医学教育研修センター	
第38回	1月17日	(火)	実技④CVポート	株式会社メディコン	
第39回	1月24日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生 武藤 憲哉先生
第40回	1月31日	(火)	真菌感染勉強会	感染制御部/住友ファーマ	
第41回	2月7日	(火)	輸液シリーズ (水電解質、静脈栄養)	大塚製薬工場	松岡 拓郎先生
第42回	2月15日	(水)	PICCの挿入ハンズオンセミナー	株式会社メディコン	
第43回	2月21日	(火)	不眠、せん妄への対応	会津医療センター	志賀 哲也先生
第44回	2月28日	(火)	頭痛の見方	脳神経外科	市川 優寛先生
第45回	3月7日	(火)	実技⑥縫合のハンズオンセミナー	整形外科	新田 夢鷹先生
第46回	3月14日	(火)	救急症例検討会	救急科	伊関 憲先生 武藤 憲哉先生他
第47回	3月22日	(水)	救急外来でのめまい対応	耳鼻咽喉科	菊地 大介先生
第48回	3月28日	(火)	漢方について	産科婦人科/性差医療センター	小宮 ひろみ先生

臨床研修医に対する支援：メンター制度

【メンター制度とは】

臨床研修医（以下、研修医）は、特定の診療科に属することなく、ローテーションで研修を行っているため、研修中に問題や悩みが生じた場合に、研修期間を通し一貫して相談できるシステムがない。メンター制度は、この欠点を補うためのものであり、研修の進め方、研修後の進路、あるいは健康面（身体的・精神的）を含むさまざまな問題に対して、研修医が相談できる環境を整え、研修医が安心して、充実した研修を行えることを目的としたシステムである。

研修医に対する充実したサポートは、研修医の脱落防止や満足度向上につながり、結果として、研修医の確保が期待される。

【福島医大附属病院のメンター制度の特徴】

研修医 1 名に対して、シニアメンターとメンターがそれぞれ 1 名ずつ担当する。シニアメンターは、臨床や研究経験が豊富であり、教育実績のある教員が担当し、主に研修医のキャリアサポートを行う。一方のメンターは、各診療科から推薦された教員が担当し、研修後のキャリアサポートに加えて、研修中に生じる疑問や不安、研修に関する幅広いサポートを行うほか、研修医の日常生活や健康状態といった研修生活全般に対するサポートも担う。シニアメンターは研修開始前に、研修医の希望によって自由に選択することができる。また、シニアメンターもメンターも、研修途中での変更が可能である。

メンター制度の一環として、研修環境に対する希望や疑問、および研修医の健康状態の把握を目的として、年に 1 回、アンケートを実施している。アンケート結果は、各シニアメンターやメンターへ報告され、メンタリングへ活用されるほか、研修環境を向上させるための参考資料としても活かされる。

【メンタリングについて】

研修医は、シニアメンターとメンターに対して、希望する際にはいつでも相談を受けられることになっている。また、特に研修医からの相談希望がない場合でも、シニアメンターとは年に 1 回、メンターとは年に 2 回、定期的にメンタリングを実施しており、研修医の研修状況や健康状態などについて確認し、2 年間の研修が滞りなく進められるようにサポートしている。

【今後の課題と展望】

メンターは、研修医と年齢が近く、何でも気軽に相談できる存在として、研修医をサポートすることが期待されている。しかしながら、メンターが常駐する部屋は整備されておらず、物理的にメンターと研修医が接点をもつ機会は限られている。そのため、通常のメンタリング以外にも、研修医と連絡を取ることが必要である。また、通常、メンターと比較して、研修医と接点が多く、研修医の研修状況や生活状況等を把握しているのは、事務職員であることが多いため、事務職員とメンターとの情報交換を定期的に行うことも研修医のサポートには不可欠であり、そのためのシステム作りも今後の課題である。

メンター制度の年間スケジュール

時期	内 容
4月上旬	研修医オリエンテーション（メンター制度について）
6月中旬～	メンターとのメンタリング（第1回）
10月中旬～	シニアメンターとのメンタリング
2月上旬～	メンターとのメンタリング（第2回）
2月中旬～	アンケート実施

福島県地域医療を考える懇談会

福島医大の定員増に合わせて、福島県の修学資金受給者が大幅に増加している。学年が上がるにつれ、修学資金受給者は、修学資金受給の義務を実際にはどのように果たしていくのか、自分の将来の専門性やキャリアアップと義務を果たすことの整合性等、様々な疑問を持つようになる。福島県の地域医療支援センターは、適宜、修学資金受給者との面談を行い、修学資金制度の説明を個別に行いながら、上記の疑問に答えるべく努力をしている。福島県は、将来の修学資金受給の義務を果たす対象となる県内の公的医療機関等を修学資金受給者に周知し、また、実際の修学資金受給者がどのように義務を果たしているかの実情を知ってもらうために、2012年度より、福島県地域医療を考える懇談会を開催している。医療人育成・支援センターの臨床医学教育研修部門は、この懇談会の開始当初から、福島県の医療の状況と修学資金受給の義務と自分の将来の専門性やキャリアアップについての講演を行うなど協力している

参加対象 福島医大4年生、5年生の修学資金受給者等

参加病院 福島医大附属病院、大原総合病院、医療生協わたり病院、福島赤十字病院、
済生会福島総合病院、公立藤田総合病院、太田西ノ内病院、星総合病院、
総合南東北病院、寿泉堂総合病院、公立岩瀬病院、白河厚生総合病院、
竹田総合病院、会津医療センター附属病院、会津中央病院、いわき市医療センター、
福島労災病院、常磐病院、公立相馬総合病院、南相馬市立総合病院

開催時期 2023年3月3日（金）

開催場所 福島県立医科大学6号館 第1～3講義室

内 容 講演

福島県の医療の現状とキャリア形成について 講師：福島医大 大谷晃司教授

地域医療の現場を経験して

講師：福島労災病院 松井田元医師

参 加 4年生：40名 5年生：46名



地域実習Ⅱ

医療人育成・支援センターが開設された当初から、「福島に残ってもらうには、福島を好きにならなければならない。好きになってもらうためには、まず福島を知ってもらわないといけない」ということをモットーに、主として授業外で学生と地域を結びつける活動をしてきた。

その過程で、県の保健福祉事務所や地域医療支援センター、あるいは地方自治体の全面的な協力を得て、2017年度から夏休み、または9月のシルバーウィークに2泊3日の日程で医学部3年生を地域に連れ出す実習（必修）を開始した。

新型コロナウイルス感染症の影響のため、2020年度と2021年度は地域に出向いての実習はできなかったが、2022年度は日帰りで各地域に出向いての実習を行った。

2022年度 地域実習Ⅱ 実習内容

日程と訪問場所

- 8月3日（水） いわき市医療センター、かしま病院、福島整肢療護園
- 8月4日（木） 公立岩瀬病院
- 8月9日（火） 白河学園第一つぼみ園、白河厚生総合病院
- 8月19日（金） 南会津病院、南会津消防署、奥会津博物館
- 8月22日（月） 小野町地方総合病院
- 8月23日（火） はねだ桃園、国見町地域包括支援センター、桑折町公民館、公立藤田総合病院、特別養護老人ホーム国見の里
- 8月24日（水） 福島労災病院、常磐病院
- 8月26日（金） 学びの森、とみおか診療所、ふたば医療センター附属病院、とみおかアーカイブミュージアム
- 9月28日（水） いわき市医療センター、鹿島病院
- 9月28日（水） 特別養護老人ホームユアアイホーム、塙厚生病院



3) 看護学教育研修部門



ご 挨拶

看護学教育研修部門長 高瀬佳苗

今日の日本では、少子高齢化が進み、医療技術の進歩や医療提供の場の多様化などにより、医療を取り巻く環境は大きく変化してきています。福島県においてもこの傾向は同様ですが、加えて、本学には、福島第一原子力発電所事故の発災による福島県民への健康支援を担うことが期待されています。また、人々の健康や医療に関する考え方として、病気や障害をもってもより良く生きる、クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)が広く知られるようになり、医療に対しては、安全および安心が期待され、その質を高めることが重要視されています。

このような、社会の変化や人々の価値観の多様化に対して、看護職は時代の流れと人々の変化を敏感に感じとり、従来の看護を大事にしつつ、新しい看護を展開する柔軟性が求められているといえるでしょう。その看護職の育成では、看護学を学ぶ学生のうちからの多角的な見方や分析、多様な価値観を尊重した看護の提供について考える力を養い、実践家になってからは、それらが看護実践で応用して展開できるような学習機会が重要になります。

これまで看護学教育研修部門では、上記のような社会状況の中、患者様・ご家族様の生活の質の向上のために、専門性の高い看護ケアを提供する看護職の育成を担うことを目標に事業を実施しております。具体的には、福島県の地域医療を担う看護職の確保支援として、県内医療機関等にご協力いただき、看護学部生を対象とした就職ガイダンスを実施しております。このガイダンスでは、学生自身が将来を見据えた進路を考える良い機会となるように支援しており、今後も地域医療に貢献できる人材の確保の一端を担いたいと存じます。

また、看護学部入学前からの人材確保の一環として、高校生に対して、看護への関心を高め、将来の仕事としての看護職の具体的なイメージをもってもらうために、看護学部学生生活委員会および広報委員会の協力のもと県内高校への出前講座を行っております。この出前講座では、看護学を学ぶことの動機づけの側面があり、漠然と大学で学ぶから学問として看護学を学ぶへと、学びの意識を高める支援の一翼を担いたいと考えております。

そして、2022年度には、看護の専門性を高めることをテーマとする研修と看護業務に関連する知識と技術の向上をテーマとする研修を実施しております。これらの研修は、医療職を目指す学生や看護職以外の専門職にも参加を呼びかけ、多方面からの参加がありました。しかし、感染症の流行の影響で集合しての研修会ではなくて、遠隔操作による研修会の実施となり、ケアの技術を鮮明にお伝えすることには限界がありましたが、次年度は、参加者の皆さまの理解が深まるよう、さらに研修の内容と方法を工夫したいと考えております。

おわりに、看護学教育研修部門では、これからも、患者様・ご家族様のニーズに真摯に向き合い、満足度の高い看護ケアが提供できるような専門職としての研鑽の機会を提供し、その育成を支援して行きたいと考えております。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022 年度

2022 年	
4 月 27 日 から 11 月 22 日	県北地域、県中地域、会津地域、いわき地域の高校に対する出前講座 および学校訪問(看護学部学生生活委員会および広報委員会の協力)
2023 年	
1 月 11 日	第 1 回 研修会(院内向け)：臨床倫理のモヤモヤ、解決するヒント！ (医療人育成・支援センター看護学教育研修部門主催) 【研修時間】17:30～19:00 【研修内容】口演(Web 開催)
2 月 1 日	第 1 回 就職ガイダンス(対面式) 【対 象】看護学部 3 年生 14:40～16:30 【参加機関】医科大学附属病院 【場 所】11 号館 1 階第 1 臨床講義室
2 月 8 日	第 2 回 就職ガイダンス(Web 開催) 【対 象】看護学部 3 年生 【参加機関】県内の民間医療機関および公立医療機関 相双地区 3 町村(保健師) 福島県病院局 (県庁) 本学会津医療センター附属病院
3 月 17 日	第 2 回 研修会(県内含む)：緩和ケア～看護師だからできること (医療人育成・支援センター看護学教育研修部門主催) 【研修時間】17:30～18:30 【研修内容】口演(Web 開催)

看護学部生を対象とした就職ガイダンス

看護学教育研修部門では、看護学部生を対象とした就職ガイダンスを実施しています。

2022年度は、本学附属病院・会津医療センター附属病院、県内の主要な医療機関18機関等が参加した就職ガイダンスを開催するなど、学生が自分の将来像を考える機会となる事業を実施しました。

各種就職ガイダンスは、単に就職を目的とするだけでなく、看護学部3年次の学生全員を対象に県内医療機関の現状を知るための機会と位置付けており、医療機関職員から直接話を伺う機会としています。

2022年度

開催日	内 容	出席者等
2023年2月1日(水)	(対面開催) ・福島医大附属病院	本学看護学部 3年生
2023年2月8日(水)	(オンライン開催) ・民間病院等12機関 ・相双地区3町村 ・会津医療センター附属病院 ・保健師(県庁) ・看護師(県庁・病院局)	



就職ガイダンスの様子

県内高校への出前講座および大学訪問

看護学教育研修部門では、看護学部広報委員会の協力のもとに、県内高校への出前講座および大学訪問を実施しています。

2022年度は、県北地域、県中地域、そしていわき地域の高校からの依頼に応じて、13校に出前講座および大学訪問を実施しました。看護学を学ぶ楽しさや看護職としてのやりがいなどの魅力が伝わるようにどの教員も心がけておりますが、参加した高校生の顔はみな真剣で、眼差しは興味関心にあふれていることが伝わってきました。

出前講座では、生活の糧となる職の選択肢の一つとして考えるだけではなくて、社会的な看護職の位置、社会から期待されること、専門職としての役割と責任などをわかりやすく、具体的に、そして魅力的に伝え、看護学および看護職に近づく第一歩としたいと考えております。また、学校訪問では、講義および学部内実習室等の見学をとおして、看護実践がイメージとして伝わるように心がけております。

出前講座

日程	場 所	講師役
4月27日	安積黎明高校	関亦講師
6月3日	須賀川桐陽高校	渡邊講師
6月9日	須賀川創英館高校	佐藤講師
7月5日	磐城桜が丘高校	齋藤講師
10月13日	福島南高校	古橋講師
10月21日	郡山東高校	高瀬講師
10月26日	安積黎明高校	橋本講師
10月26日	橘高校	菅野講師
11月10日	郡山高校	丸山講師

大学訪問

日程	見学校	従事者数
4月27日	日本大学東北高校	合計4人の教員が従事
6月3日	聖光学院高校	
6月9日	会津学鳳中学校	
7月5日	水戸葵陵高校	
10月13日	須賀川創英館高校	

※上記の調整は、看護学部広報委員会が担当している。

看護職を対象とした教育研修

看護は人を対象としており、それゆえ、看護実践では専門職としての質の向上が求められています。その質の向上とは、新人看護師は新人として、中堅看護師は中堅の看護師として、そして熟練看護師は熟練者としての知識および技術の刷新を続けることです。具体的には、科学の新たな根拠の発見、日進月歩の医学技術の進歩、こころとからだに関する新しい知識の登場など、患者さんの健康増進に重要な知識と技術は、日々更新されています。これらに気づかずに、気づいても看護に活かさなければ、患者さんの利益を損なうことにつながり、患者さんの健康増進の成果をあげるといった専門職としての役割は果たせなくなってしまいます。

また、近年では、ご高齢の方や障害をお持ちの方だけではなく、必要な人が必要なケアを生活の身近な場所で受けられるケアシステムが作られつつあります。このシステムの中では、高度な医療の提供を担う医科大学付属病院、会津医療センター附属病院も地域医療の一端を担う役割があります。更に、ケアシステムではケアの連続性から、医療、保健、福祉、教育などのさまざまな分野の専門職と協働する必要があり、それぞれの専門分野の専門職が自らの質を高めることによって協働を実現することができます。そして、それは看護職も例外ではありません。

そこで、令和4年度は、地域医療を担う看護師の資質向上の一翼を担うために2回の研修会を開催しました。この2回の研修会は、内容に応じて大学付属病院で働く看護職だけではなく、県内の医療機関等で働く看護職等に研修会への参加を呼びかけておりますが、感染症の流行のため2回とも遠隔操作を用いて行いました。その結果、第1回研修会の参加者は18人、第2回研修会の参加者が36人でした。第1回研修会のテーマは、看護職のスキルアップ、キャリアアップに関連したのですが、熟練の看護職、看護職以外の専門職、そして学生など幅広い年代の方々が参加しました。また、第2回研修会のテーマでは、がん患者さんの口腔ケアに関する知識と技術の向上を目指した内容で、本学附属病院以外の医療機関の看護職の方々が参加しました。

これら2回の研修会をとおして、研修会に参加した方々からは実践者として、専門職として自らを磨くという熱意が、遠隔操作の画面や音声のやり取りから伝わってきました。昨年度に引き続き、対面での研修を開催することはできませんでしたが、今後も看護教育研修部門では、多くの皆さまが参加したくなる研修テーマと内容の実施に取り組んでまいります。

なお、それぞれの研修会の詳細は、以下のとおりです。

第1回研修会

■研修会の主旨

今日では、社会的に医療の安全や安心に対する期待が高まっており、看護職は人々の価値観の多様化、変化を敏感に感じとり、専門職として責任のある実践が求められている。しかし、看護実践の現場では、これらの多様性と複雑性を踏まえた質の高い看護を提供する際に、患者および家族への倫理的配慮に苦心することがある。そこで、第1回目は、看護系大学院で学び、現在本学附属病院において専門看護師として活躍している講師を招き、研修会を開催する。

■テーマ 臨床倫理のモヤモヤ、解決するヒント！：これは本当に患者さんのため？何のため？

■日時 2023年1月11日(水) 17:30~19:00

■対象 福島県立医科大学附属病院の看護職及び関心のある全教職員・大学院生・学生会津医療センターの医療職等

■内容 講演(Web開催)

講師 井上貴晃氏(福島県立医科大学附属病院 急性・重症患者看護専門看護師)

■その他 研修会終了後、一定期間のオンデマンド配信を実施し、大変好評だった。

第2回研修会

■研修会の主旨

現在、日本では、がん対策として、いつでもどこでも安心かつ納得できる医療や支援を受けることができるよう目標を設定した施策を推進している。そのため、病棟・外来・在宅療養の場において、がん患者さんの治療や療養支援に関わる看護職には、その質の向上が期待されている。そこで、第2回目は、がん患者さんの緩和ケアに関する知識と技術の向上に役立ててもらうため、日頃から、がん患者さんの治療に認定看護師として参加している専門家を招き、研修会を開催する。

■テーマ 緩和ケア：看護師だからできること

■日時 2023年3月17日(金) 17:30~18:30

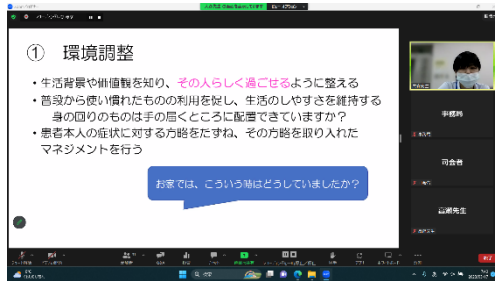
■対象 福島県立医科大学附属病院の看護職及び関心のある全教職員・大学院生・学生会津医療センターの医療職、福島県内病院の医療職

■内容 講演(Web開催)

講師 大森あゆみ氏(福島県立医科大学附属病院 緩和ケア認定看護師)

■その他 第一回と同様に研修会終了後、一定期間のオンデマンド配信を実施し、好評だった。

研修会の様子



2022年度 医療人育成・支援センター看護学教育研修部門主催
第一回研修会

臨床倫理のモヤモヤ、 解決するヒント！

～これは、本当に患者さんのため？何のため？～

2023年
日時 1月11日 水 17:30-19:00
開催: WEBによる配信
オンデマンドによる配信 1月11日～2月10日(予定)

講師 井上貴晃
福島県立医科大学附属病院
急性・重症患者看護専門看護師

- 参加無料
- 本学附属病院の看護職および関心のある全教職員・大学院生・学生会津医療センターの看護職等
- 事前申し込み先: 医療人育成・支援センター 担当: 石田
TEL:024-547-1713 Mail:omecd@fmu.ac.jp

イベント参加はコチラから!!
となりのQRコードからも申し込みができます

<お問い合わせ> 看護学部基礎看護学部門 丸山育子
Tel: 024-547-1867 Email: kise@fmu.ac.jp

2022年度 医療人育成・支援センター看護学教育研修部門主催
第二回研修会

参加費 無料

緩和ケア 看護師だからできること

日時: 2023.3.17 (金)
17:30-18:30
開催: WEBによる配信
オンデマンドによる配信 3月17日～30日

講師 大森 あゆみ
福島県立医科大学附属病院
緩和ケア認定看護師

対象 看護師および関心のある全職員、
大学院生、学生

**事前
申込** 医療人育成・支援センター 担当: 石田
TEL:024-547-1713 Email: omeacd@fmu.ac.jp

看護学部基礎看護学部門 丸山育子
TEL:024-547-1867 Email:kise@fmu.ac.jp

4) 災害医療総合学習センター



ご挨拶

災害医療総合学習センター長 長谷川有史

2011年3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故（以後 福島事故）後に、福島県内の医療体制は一時的に危機的な状況に陥りました。福島事故の反省を受けて、今後も発生が懸念される大災害を想定した準備を行う事、災害医療・放射線被ばく医療に従事できる医療者の養成を行う事、が急務と考えられました。そこで福島県立医科大学では、2012年1月に文部科学省3次補正の国庫補助事業として災害医療総合学習センターを設立し、10年プロジェクトとして活動を開始いたしました。その後は2017～2020年度まで放射線健康リスク科学人材育成プログラムと連携を図り長崎大学・広島大学のご指導を賜りながら運営を行って参りました。

原子力災害医療における教育・啓発プログラムについては、2016年度から原子力規制委員会により原子力災害時の医療体制整備が進められ、中核人材育成研修などの全国的な統一された教育研修制度が準備されて参りました。本学でも原子力災害医療・総合支援センターを中心に標準的な教育・研修が運営されております。一方で、福島事故から得られた知識・経験・教訓のエッセンスを伝える機会が徐々に減っているのも現実です。

本センター教育プログラムの特徴は、福島事故から実際に得られた経験と教訓をそのプログラムに強く反映している点にあります。加えて、災害の最前線で、災害医療・放射線被ばく医療の実践に対応されている医療関係者やエキスパートの皆様、災害医療に従事することを目指している社会人の皆様並びに学生の方々に、福島事故の経験と反省に基づく総合的な学習を提供することを目標としております。

折しも原子力施設が戦略上の課題として新たに認識される不安定な社会情勢の折り、全国各地の多くの皆様から当センターの活動にご賛同を頂いております。特に財政面では厳しい環境での運営を余儀なくされておりますが、私どもの取り組みが震災復興の一助となり、学部学生、大学院生、医療関係者をはじめセミナーを受講された皆様が、原子力災害医療の急性期または復興期の担い手となりますことを、ひいては日常生活や業務にお役立ちできます事を、スタッフ一同、心から願っております。

災害医療総合学習センター事業概要

災害医療総合学習センターは、震災及び原子力災害により被害を受けた福島県内医療体制の再生や放射線の影響等に係る教育、研修体制の充実、人材確保を目的に、文部科学省の2011年度「復興教育支援事業」大学等における地域復興のためのセンター的機能の整備（2011年度第3次補正予算）の採択を受け、福島医大医療人育成・支援センター内に10年プロジェクトとして設置され、2012年4月1日付で医師1名、看護師1名、事務職員3名の職員を配置し、2012年5月17日より本格的に活動開始した。医学部の各講座との協力のもと、特に放射線健康管理学講座のバックアップで、学生教育、医療者教育、地域支援の分野を軸として以下に述べる教育事業を展開してきた。2020年度以降順次担当者が変更された。現在は放射線災害医療学講座の長谷川教授、放射線健康管理学講座の坪倉教授らが主に業務を担当し、教育研修支援課並びに健康ロスクコミュニケーション学講座、放射線災害医療学講座の支援を得て運営されている。

【学生教育】

- (1) 医学部学生教育（5年生対象、臨床実習4日間プログラムの参画）
- (2) 医学部学生教育（3年生対象、講義）
- (3) 他大学（国内外）からの学生を対象とする教育セミナー
- (4) e-ラーニング開発と供用（医学生、看護学生、附属病院看護師、各種セミナー参加者）
- (5) 災害・被ばく医療科学共同専攻修士大学院運営への参画

福島医大の医学生（5年次）対象の災害医療関連教育プログラムを、臨床実習BSLとして2012年度より行っている。現在、放射線災害医療BSLを共同運営している。

■ BSL 1日目	■ BSL 2日目	■ BSL 3日目	■ BSL 救急
<ul style="list-style-type: none">福島事故の概略および健康課題被災者のメンタルヘルスケア環境放射線測定評価実習内部被ばく検査実習	<ul style="list-style-type: none">リスクコミュニケーション地域の保健活動・コミュニケーションと医療	<ul style="list-style-type: none">生物学的線量評価実習	<ul style="list-style-type: none">放射性物質汚染を伴う外傷患者への初期診療実習

上記は以下の4日間から構成される。「原子力災害医療、放射線と健康BSL（3日間）」では放射線に関する基礎的知識・技術・態度を広く医療・福祉・保健並びに社会・政策の視点から考察する。「救急医学としての放射線災害医療BSL（1日間）」では汚染傷病者に対する救急医学の知識・技術・態度を学ぶ。このうち「救急医学としての放射線災害医療BSL」は救急医療学講座のご協力により救急医学の臨床実習の枠の中で実施させて頂いている。具体的な内容を下記に示す。

(1) 臨床医学を通じた福島第一原発事故に関連した概要と外部被ばく・内部被ばく評価実習 (BSL 第1日目)

- ①オリエンテーション 福島事故の概略および健康課題
- ②被災者のメンタルヘルスケア
- ③環境放射線測定評価実習
- ④内部被ばく検査実習



(2) 放射線と健康に関する臨床医学とマスコミュニケーション対応の実習 (BSL 第2日目)

- ⑤リスクコミュニケーション
- ⑥地域の保健活動/コミュニケーションと医療
- ⑦マスコミュニケーション対応



(3) 生物学的線量評価実習 (BSL 3日目)

- ⑧生物学的線量評価実習



(4) 緊急被ばく医療 (救急医療の一部で実施)

放射性物質汚染を伴う外傷患者への初期診療実習

【医療・保健従事者への啓発】

医師・看護師等の医療・保健従事者を対象とする災害医療セミナー

医師・看護師・放射線技師等の医療者に対し、2012年の当センター設置以降開講してきた「福島災害医療セミナー」を目的別・段階別に「被ばく医療コース」、「上級コース」、「県内医療従事者コース」の3コースとして災害・被ばく医療そして原発事故後の福島の実現を段階的に学べるように実施してきた。2012年度から下表の如く計43回のセミナーを主催した。2020年度以降はコロナウイルス感染症の世界的流行をうけてオンラインコースを開催し、多様な社会的背景を持つ参加者の集中力や疲労度を加味しつつ双方向性を担保する参加しやすいセミナーづくりを目指した。尚、本セミナーは、災害医療総合学習センターが主催し、放射線災害医療学講座、健康リスクコミュニケーション学講座が共催で運営されており、当センター以外にも多くの所属の大学職員の協力の元に維持・運営されている。

1. セミナー実施状況

(1) 被ばく医療初級コース 計 32 回

第 1～3 回	「医療人育成・支援センター年報 2010-2013 年度」版参照
第 4～7 回 第 9～11 回 第 13～15 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 17～23 回 第 25～28 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 30～32 回 第 34～35 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照
2020	2020 年 10 月 10 日 (土)
2021 オンラインコース 1	2021 年 6 月 11 日 (金) ～12 日 (土)
2021 オンラインコース 2	2021 年 10 月 1 日 (金) ～2 日 (土)
2022 オンラインコース 1	2022 年 6 月 3 日 (金) ～4 日 (土)
2022 オンラインコース 2	2022 年 10 月 14 日 (金) ～15 日 (土)

(2) 上級コース (※「被ばく医療コース」受講修了者対象) 計 7 回

第 8 回 第 12 回 第 16 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 24 回 第 29 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 33 回 第 36 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照

(3) 県内医療従事者コース 計 6 回

第 1～3 回	「医療人育成・支援センター年報 2014-2015 年度」版参照
第 4 回	「医療人育成・支援センター年報 2016-2017 年度」版参照
第 5～6 回	「医療人育成・支援センター年報 2018-2019 年度」版参照

2. 受講者数および講師、協力者数

(1) 被ばく医療コース

	受講者数					講師、協力者数(延べ)		
	医師※1	看護職	診療放射線技師	その他※2	合計	学内	学外	合計
第1～3回	13	8	6	3	30	14	21	35
第4～7回	17	14	11	4	46	36	22	58
第9～11回	20	20	15	5	60	30	7	37
第13～15回	14	27	20	10	71	26	6	32
第17～23回	27	63	30	24	144	41	7	48
第25～28回	26	36	22	15	99	30	2	32
第30～32回	21	27	26	14	88	21	5	26
第34～35回	13	23	26	16	78	22	4	26
2020	14	21	14	22	71	7	1	8
2021-1	2	7	0	9	18	8	1	9
2021-2	14	25	14	18	71	8	1	9
2022-1	9	30	18	26	83	8	1	9
2022-2	10	14	13	14	51	8	1	9
合計	200	315	215	180	910	267	80	347

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、作業療法士、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職、大学院生、大学生、高校生

(2) 上級コース

	受講者数					講師、協力者数(延べ)		
	医師※1	看護職	診療放射線技師	その他※2	合計	学内	学外	合計
第8.12.16回	23	23	17	3	66	20	27	47
第24.29回	15	22	16	14	67	13	11	24
第33回	8	11	6	10	35	8	8	16
第36回	10	11	14	4	39	5	9	14
合計	56	67	53	31	207	92	55	147

※1 研修医含む

※2 臨床心理士、臨床検査技師、薬剤師、救急救命士、消防士、大学教員、管理栄養士、事務職

(3) 県内医療従事者コース

	受講者数					講師
	医師	看護職	診療放射線技師	その他※3	合計	学内
第1～3回	9	22	3	16	50	15
第4回	2	8	0	8	19	4
第5回	5	4	1	13	23	8
第6回	1	2	2	3	8	5
合計	17	36	6	40	99	32

※3 臨床検査技師、薬剤師、理学療法士、鍼灸師、救急救命士、消防士、社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、事務職

いつもほとんどの受講者から、それぞれの講義と全体の感想と意見をいただいている。主催者としては、過分の高い評価をいただき、受講者の皆様と講師を引き受けていただいた先生方や住民の方々に感謝申し上げます。また建設的なご意見をいただくこともよくあり、次回のセミナーへの改善に繋げてきた。ほんのごく一部だが、いただいた感想の中から抜粋して紹介する（抜粋のため記載のままではない）。

● 医師（福島県）

原発に起こったことの正確な理解にとっても有益でした。事故当時に福島市内に子どもを育てながら一緒に考え、生活してきた放射線の専門家の行動と判断は非常に興味深く、感動的でした。

● 診療放射線技師（鹿児島県）

これまで原子力災害に関する講習会に参加することが何度かありましたが、今回の講習会では、他の講習会では拝聴することが無かった内容が多く、大変貴重な機会となりました。災害時には被災者に対する支援者（現地で働くスタッフ）へのメンタルヘルスのケアも大切なことや、災害発生時に現地のスタッフと協力を駆け付けたスタッフが協働するために求められることについて学ぶことが出来たことは貴重な機会となりました。

全体として実践的な能力（思考・知識）を養うことが出来た印象があります。意見交換においても、他の受講者の考え方や価値観に触れることが出来たことは貴重な時間でした。

- その他技師（京都府）

チェルノブイリとの比較や、過去の核実験の影響による人体内の放射エネルギーと比べれば、福島原発事故の放射能汚染は少ないことが理解できた。漠然と『福島で生活する』と少なからず被爆し健康に害を受けると思っていたが、具体的な数値で示された資料を学ぶ事で払拭できた。

- 看護師（静岡県）

女性の不妊だけでなく、男性側からの知見をいただき、改めて不用意な不安を持つ必要性がないことを認識しました

- 保健師（福島県）

自然災害後のメンタルヘルスケアから、原子力発電所事故に特有の問題、災害支援者のメンタルヘルスまで先生の講義は、言葉の一つ一つが心に響くものでした。そして何よりわかりやすい説明で理解が深まりました。

- 高校生（神奈川県）

放射線の基礎知識を詳しく丁寧に解説して頂きました。また、「スグキク」といったアプリケーションを用いたことで、参加者の方の傾向を把握して効率良くそして、わかりやすく説明して頂きました。

【その他の保健・福祉・医療活動】

- (1) 地域住民への放射線と健康に関する講話（地域保健師等との連携事業）
- (2) 地域保健師等の放射線と健康に関する支援事業
- (3) よろず健康相談（帰還困難区域、居住制限区域、避難指示解除準備区域を域内に含んだことのある13市町村の住民対象）
- (4) 地域医療支援（福島県警、双葉地方広域市町村圏組合双葉消防、市町村ワクチン接種など）。
- (5) 附属病院放射線災害医療センターにおける健康診断（被ばく者検診・WBC検診など）と診療。

5) 保健科学教育研修部門



ご挨拶

保健科学教育研修部門長 久保 均

保健科学部は医学部、看護学部を引き続いて3つ目の学部として2021年4月に開設されました。保健科学部は理学療法学科、作業療法学科、診療放射線科学科、臨床検査学科の4学科で構成されており、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師、そして臨床検査技師の4職種の医療従事者を養成します。

2021年4月に入学した1期生は本稿執筆時点で3年生となり、3期生までが入学して年々賑やかになってきております。学年進行に伴って専門科目の開講が増えてきて、4学科それぞれにより専門的で高度な教育が実施されてきています。新設学部としてのメリットを十分に活かし、保健科学部の理念や目標、そしてポリシーに基づいて「いのち、健康、および生活を守る専門医療技術者として、高い倫理観と知識・技術、コミュニケーション能力を有する人材」、「生涯にわたって学習・科学する意欲を持ち続け、人として、専門医療技術者として成長することができる人材」、そして「福島県の地域医療や災害医療を理解し、それらへの取り組みを能動的に行える人材」を養成できるように努力してまいります。

医療人育成・支援センター保健科学部教育研修部門としては、4学科がそれぞれ実施する臨床実習等の実施状況などを見守ると共に、他部門等との情報共有を密にして確実な教育の実施に寄与してまいります。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022 年度

2022 年 4 月 27 日 から 11 月 4 日	県内外の高校に対する出前講座および学校訪問
2023 年 1 月 26 日	第 1 回 研修会： 医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェア の推進は臨床現場の何を変えるのか？ —診療放射線技師と臨床検査技師の場合— (医療人育成・支援センター保健科学教育研修部門主催) 【研修時間】 17：30～19：00 【研修内容】 口演(Web 開催)
3 月 1 日	第 2 回 研修会： 小児疾患患者への対応を知り、外来・訪問リハや放課後等 デイサービスの対象者を広げよう！ —誰でもできる、初めにやっておきたい小児疾患患者への 対応のイロハ— (医療人育成・支援センター保健科学教育研修部門主催) 【研修時間】 17：30～18：30 【研修内容】 口演(Web 開催)

出前講義

2022 年度は保健科学部開設から 2 年目でありましたが、以下のように出前講義をいたしました。コロナ禍でなかなかこのような機会を設けるのは難しかったのですが、保健科学部で養成している医療技術者について、そして 4 職種それぞれについての詳細を伝えて、高校生の皆さんに興味を持ってもらうようにいたしました。今後もご依頼をいただければお伺いすることが可能ですので、このような機会を通じて保健科学部について知っていただき、医療技術者を目指す高校生が増えることを期待しています。

2022 年度の訪問先は別紙のとおりです。

【2022年度 出前講義訪問先】

年月日	開催地	タイトル／講師名
R4.4.27	安積黎明高等学校 (保健・医療コース導入校)	「福島県立医科大学保健科学部のご紹介」 診療放射線学科 加藤教授
R4.6.3	須賀川桐陽高等学校	「福島県立医科大学保健科学部の紹介」 「医療技術職に求められる資質・人物像」 作業療法学科 曾根教授
R4.6.9	須賀川創英館高等学校 (保健・医療コース導入校)	「福島県立医科大学保健科学部の紹介」 理学療法学科 森下教授
R4.6.15	福島西高等学校	「新しい保健科学部キャンパスで学ぶリハビリと理学療法」 理学療法学科 中野渡講師
R4.7.5	磐城桜が丘高等学校	「福島県立医科大学保健科学部の紹介」 「医療人としての心構え」 作業療法学科 曾根教授
R4.7.5	いわき湯本高等学校 (保健・医療コース導入校)	「保健・医療系のお仕事と、福島県立医科大学保健科学部の紹介」 臨床検査学科 松田助教
R4.7.6	相馬高等学校	「理学療法とリハビリテーションに関する基礎」 理学療法学科 遠藤講師
R4.7.8	原町高等学校	「福島県立医科大学保健科学部の紹介」 臨床検査学科 菅野准教授
R4.9.16	磐城高等学校	「臨床検査技師の魅力と活躍」 臨床検査学科 鈴木准教授
R4.10.6	福島南高等学校	「福島県立医科大学保健科学部の紹介」 診療放射線科学科 大場講師
R4.10.18	宮城県石巻高等学校	「将来に繋がる医療の学び -放射線はどのように使われているの?-」 診療放射線科学科 広藤講師
R4.10.18	白河旭高等学校	「医療を志す皆さんへ -医療従事者に期待されていること-」 作業療法学科 倉澤教授
R4.10.26	橘高等学校	「医療における診療・教育・研究の魅力 -ちょっと検査も体験してみよう-」 臨床検査学科 義久教授
R4.11.4	会津学鳳高等学校	「これからの医療で臨床検査技師に求められること」 臨床検査学科 三浦助教

学校見学

2022年度は、新型コロナ感染対策の関係もありましたが、以下の4校の受入を行う事ができました。今後は、ご興味をお持ちのご施設からの積極的に受入を行いたいと思っております。福島駅前キャンパスの見学をご希望される場合は、是非ご連絡ください。

【2022年度 学校見学一覧】

年月日	名称	内容
R4.7.26	会津学鳳高校 大学見学	保健科学部の説明、キャンパス見学、質問・相談対応
R4.8.8	日大東北高校 大学見学	保健科学部の説明、キャンパス見学、質問・相談対応
R4.8.9	聖光学院高校 大学見学	保健科学部の説明、キャンパス見学、質問・相談対応
R4.9.14	会津学鳳中学校 大学見学	保健科学部の説明、キャンパス見学、質問・相談対応



臨床検査学科 見学の様子



作業療法学科 見学の様子



診療放射線学科 見学の様子



理学療法学科 見学の様子

2022 年度医療施設等を対象とした教育研修

保健科学部は 2021 年 4 月に開設され、順調に学年進行しております。1 期生は 2022 年度には 2 年生となり、専門科目が増えてきていることに加えて多くの実験・実習が始まっており、忙しい日々を送っています。いよいよ 2024 年度末には初の卒業式を挙げる事となり、保健科学部の開設のために設置された新医療系学部設置準備室の時から考えると 10 年近い歳月を振り返るととても感慨深いものがあります。しかし、今の教員にそのような感慨に浸っている暇はなく、国家試験への対応、そして就職などの進路支援など行わなければならない事項が次から次へとやってくるところです。

このような中で、福島県内の医療施設などに保健科学部をより良く知っていただくために、保健科学教育研修部門では 2022 年度に 2 回の研修会を開催しました。第 1 回は「医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進は臨床現場の何を変えるのか？ —診療放射線技師と臨床検査技師の場合—」というテーマでオンライン開催し、70 名を超える事前登録をいただき 60 名を超える県内各地の皆様にご参加いただきました。内容は医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアに関連して、本学部で養成している診療放射線技師と臨床検査技師ではどのような業務拡大がなされ、それが臨床現場にどのようなインパクトを与える可能性があるかについて、診療放射線科学科の田代助教と臨床検査学科の三浦助教にご講演いただきました。また第 2 回は「小児疾患患者への対応を知り、外来・訪問リハや放課後等デイサービスの対象者を広げよう！ —誰でもできる、初めにやってみたい小児疾患患者への対応のイロハ—」というテーマで第 1 回と同様にオンライン開催し、こちらは医療施設のみではなくデイサービス施設等からも含めて 70 名を超える事前登録をいただき、やはり 60 名を超える実際のご参加をいただきました。内容は福島県ではまだまだ取り組みに余地がある小児疾患患者を対象とした外来・訪問リハや放課後等デイサービスの拡大を目指し、そのために必要な小児疾患患者への対応の基本について理学療法学科の楠本准教授と作業療法学科の倉澤教授にご講演いただきました。いずれの回のご講演も非常に分かりやすくお話しいただき、県内の関連施設で業務に従事されている皆様の今後に少しでもお役に立てたのではないかと考えております。

これら 2 回の研修会を通じて、県内の医療施設など関連施設の皆様に保健科学部の活動等を知っていただくことができたと考えております。引き続き県内の関連施設を対象とする研修会を開催することで、施設の運営や活動に微力ながら尽力して参りたいと思っております。

なお、それぞれの研修会の詳細は、以下のとおりです。

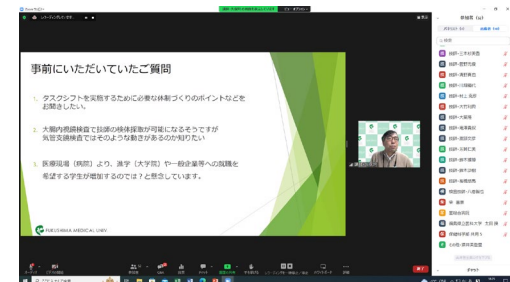
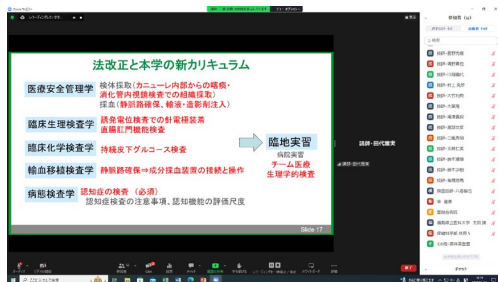
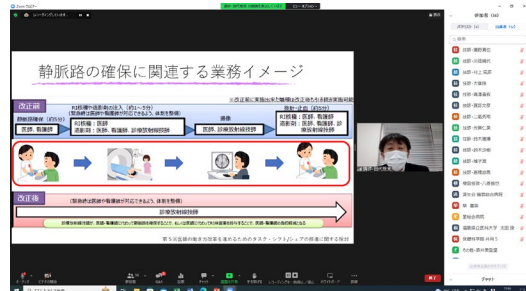
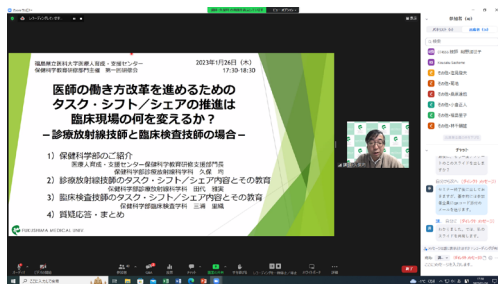
第1回研修会

- テーマ 医師の働き方改革を進めるためのタスク・シフト/シェアの推進は臨床現場の何を
変えるのか？
—診療放射線技師と臨床検査技師の場合—
- 日時 2023年1月26日(木) 17:30~18:30
- 対象 福島県立医科大学保健科学部に関心のある教職員、学生
その他福島県内外の医療関係者
- 内容 講演(オンライン研修会)
講師 田代雅実先生(福島県立医科大学保健科学部放射線学科)
三浦里織先生(福島県立医科大学保健科学部臨床検査学科)

第2回研修会

- テーマ 小児疾患患者への対応を知り、外来・訪問リハや放課後等デイサービスの対象者を
広げよう！
—誰でもできる、初めにやっておきたい小児疾患患者への対応のイロハ—
- 日時 2023年3月1日(木) 17:30~18:30
- 対象 福島県立医科大学保健科学部に関心のある教職員、学生
その他福島県内外の医療等関係者
- 内容 講演(オンライン研修会)
講師 楠本泰士先生(福島県立医科大学保健科学部理学療法学科)
倉澤茂樹先生(福島県立医科大学保健科学部作業療法学科)

研修会の様子



4. 研究業績



〔原 著〕

Yasui K, Stanyon M, Moroi Y, Aoki S, Yasuda M, Otani K, Shikama Y. Deconstructing barriers to support Japanese students in group discussion. *Asia Pacific Scholar*. 202210; 7(4):73-75.

Horiuchi S, Iwano S, Aoki S, Sakano Y. Unwinding on the Weekend from Work-Related Stress: Moderating Effect of Weekday Psychological Stress on the Relationship between Increased Recovery Experience and Reduction of Psychological Stress on the Weekend. *Behavioral Sciences*. 202205; 12(6):163.

Oikawa S, Iida J, Ito Y, Nishigori H. Cultivating cultural awareness among medical educators by integrating cultural anthropology in faculty development: an action research study. *BMC Medical Education*. 202203; 22(1):196.

Aoki S, Shikama Y, Yasui K, Moroi Y, Sakamoto N, Suenaga H, Tang Z, Yasuda M, Chiba Y, Stanyon M, Otani K. Optimizing simulated interviews and feedback to maximize medical students' self-efficacy in real time. *BMC Medical Education*. 202206; 22(1):438.

Deng K, Tsuda A, Horiuchi S, Aoki S. Processes of change, pros, cons, and self-efficacy as variables associated with stage transitions for effective stress management over a month: a longitudinal study. *BMC Psychology*. 202205; 10(1):122.

Jujo S, I Sakka B, J Lee-Jayaram J, Kataoka A, Izumo M, Kusunose K, Nakahira A, Oikawa S, Kataoka Y, W. Berg B. Medical Student Medium-Term Skill Retention Following Cardiac Point-of-Care Ultrasound Training Based on the American Society of Echocardiography Curriculum Framework. *Cardiovascular Ultrasound*. 202210; 20(1):26.

Ito N, Yoshida S, Sato M, Yasui K, Sonoda Y, Tsubokura M. COVID-19 Vaccination in a Former Fukushima Nuclear Accident Evacuation Area: COVID-19 Vaccination for Former Evacuees. *Disaster Medicine and Public Health Preparedness*. 202212; 17:e321.

Toyomoto R, Sakata M, Yoshida K, Luo Y, Nakagami Y, Iwami T, Aoki S, Irie T, Sakano Y, Suga H, Sumi M, Ichikawa H, Watanabe T, Tajika A, Uwatoko T, Sahker E, Furukawa TA. Validation of the Japanese Big Five Scale Short Form in a University Student Sample. *Frontiers in Psychology*. 202206; 13:862646.

Oikawa S, Stanyon M, Aoki S, Moroi Y, Yasui K, Yasuda M, Kawai T, Shikama Y, Otani K.

Breaking barriers: widening participation for cross-cultural faculty development in Japan. *International Journal of Medical Education*. 202206; 13:154-157.

Iwano S, Kambara K, Aoki S. Psychological Interventions for Well-Being in Healthy Older Adults: Systematic Review and Meta-Analysis. *Journal of Happiness Studies*. 202206; 23(5):2389-2403.

Oikawa S, Donkers J. Assessment of teamwork in interprofessional education. *Journal of Interprofessional Care*. 202207; 36(4):574-581.

唐尊一, 坂本信雄, 色摩弥生, 大谷晃司. 臨床実習における学生の目標到達度新評価システム利用状況とユーザー教員から見た導入の効果. *福島医学雑誌*. 202204; 72(1):11-21.

[その他]

染谷真紀, 松井智子, 錦織宏, 及川沙耶佳. 小児集中治療に携わる医師に求められる能力とその評価—The American Board of Pediatricsによる小児集中治療医 EPA の日本語翻訳—. *医学教育*. 202202; 53(1):110-111.

及川沙耶佳, 木村武司, 錦織宏. 「医学教育研究室の抄読会から」(第13回)「メディアリテラシーを学ぶ」. *医学教育*. 202206; 53(3):270-273.

武田裕子, 日高優, 三苦博, 安川康介, 里光やよい, 春田淳志, 宮田靖志, 諸井陽子, 石川和信. J-STAGE ダウンロード数年間トップ20 (2021年9月~2022年8月) 掲載. *医学教育*. 202212; 53(6):538-555.

研究発表等 (講演・口頭発表等)

[研究発表]

Eto Y, Sato E, Oikawa S, Ouchi G, Berg BW. COVID Adaptation of an Established International Faculty Development Course. 22nd International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2022); 20220115-19; Los Angeles, USA.

Sato E, Eto Y, Oikawa S, Luthe SK, Ouchi G, Nakahira A, Naka T, Berg BW. PEARLS-J. Promoting Excellence and Reflective Learning in Simulation Debriefing Tool; bilingual translator vs DeepL® machine back-translation discrepancies in translation and cultural adaptation for Japan from a focus group interview. 22nd International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2022); 20220115-19; Los Angeles, USA.

Stanyon M, Shikama Y, Moula Z, Horsburgh J, Parekh R, Oikawa S, Yasuda M, Otani K. The culturally constructed face of professionalism: International Japan-UK Q-method study

update. An International association for Health Professions Education (AMEE) 2022; 20220831; Lyon, France/Web.

Oikawa S, Stanyon M, Aoki S, Moroi Y, Yasui K, Yasuda M, Kawai T, Shikama Y, Otani K. Breaking language and cultural barriers for participation - cross-cultural Faculty Development for the recognition of unprofessional behavior in Japan -. An International association for Health Professions Education (AMEE) 2022; 20220830; Lyon, France/Web.

Stanyon M, 及川沙耶佳, 色摩弥生, 諸井陽子, 安田恵, 青木俊太郎, 安井清孝, Tang Z, 川井巧, 中村光毅, 大谷晃司. A LINE-based medical escape room to facilitate team skills in English during COVID-19. 第 54 回日本医学教育学会大会; 20220806; 高崎. 医学教育. 53(Suppl.):127.

Stanyon M, 色摩弥生, Moula Z, Horsburgh J, Parekh R, 及川沙耶佳, 安田恵, 大谷晃司. The culturally constructed face of professionalism: International Japan-UK Q-method study update. 第 54 回日本医学教育学会大会; 20220805-06; 高崎. 医学教育. 53(Suppl.):134.

安田恵, 色摩弥生, 川井巧, 青木俊太郎, 及川沙耶佳, 中村光輝, 大谷晃司. ドキュメンタリー動画をとり入れたコロナ禍での地域体験実習代替授業. 第 54 回日本医学教育学会大会; 20220805-06; 高崎. 医学教育. 53(Suppl.):150.

色摩弥生, 青木俊太郎, 諸井陽子, 大谷晃司. 授業時間内に学習者の思考を把握し対応したオンライン”基礎臨床統合一反転授業”. 第 54 回日本医学教育学会大会; 20220805-06; 高崎. 医学教育. 53(Suppl.):182.

青木俊太郎, 竹林由武, 色摩弥生, 大谷晃司. コミュニケーション講義が医学生のコミュニケーションを行う自信に与える影響の性差. 第 54 回日本医学教育学会大会; 20220805-06; 高崎. 医学教育. 53(Suppl.):189.

[シンポジウム]

Chandratilake MN, Charnetski M, Oikawa S. EID in Simulation-Based Education. 15th International Medical Education Conference; 20221015; Kuala Lumpur, Malaysia.

Ashokka B, Oikawa S, Narendiran K. Cultural considerations for optimizing outcomes of interprofessional simulations. 5th Saudi Health Simulation Conference; 20221108; Riyadh, Saudi Arabia.

諸井陽子. 医療系学生・医療系専門職が引き起こした SNS モラルハザード事例. 第 54 回日本医

学教育学会大会；20220805-06；高崎. 医学教育. 53(Suppl.):72.

〔原 著〕

Hijikata Y, Kamitani T, Sekiguchi M, Otani K, Konno S, Takegami M, Fukuhara S, Yamamoto Y. Association of kyphotic posture with loss of independence and mortality in a community-based prospective cohort study: the Locomotive Syndrome and Health Outcomes in Aizu Cohort Study (LOHAS). *BMJ Open*. 202205; 12(3):e052421.

Kobayashi H, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi Y, Yabuki S, Konno S. Development of a Novel Diagnostic Support Tool for Degenerative Cervical Myelopathy Combining 10-s Grip and Release Test and Grip Strength: A Pilot Study. *Diagnostics*. 202208; 12(9):2108.

Watanabe T, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. Relationship between lumbar disc degeneration on MRI and low back pain: A cross-sectional community study. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202208; 68(2):97-107.

Yamakuni R, Ishikawa H, Hasegawa O, Sekino H, Ishii S, Otani K, Ito H. Cauda equina movement during the Valsalva maneuver in two patients with Lumbar spinal canal stenosis. *Fukushima Journal of Medical Science*. 202208; 68(2):135-141.

Handa J, Otani K, Nikaido T, Kikuchi S, Konno S. Nocturnal Leg Cramps and Lumbar Spinal Stenosis: A Cross-Sectional Study in the Community. *International Journal of General Medicine*. 202211; 15:7985-7993.

Hiratsuka Y, Ono K, Takesue A, Sadamatsu Y, Yamada M, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Fukuhara S, Murakami A. The prevalence of uncorrected refractive error in Japan: the Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study. *Japanese Journal of Ophthalmology*. 202203; 66(2):199-204.

Morimoto T, Kobayashi T, Hirata H, Otani K, Sugimoto M, Tsukamoto M, Yoshihara T, Ueno M, Mawatari M. XR (Extended Reality: Virtual Reality, Augmented Reality, Mixed Reality) Technology in Spine Medicine: Status Quo and Quo Vadis. *Journal of Clinical Medicine*. 202201; 11(2):470.

Kobayashi T, Morimoto T, Otani K, Mawatari M. Locomotive Syndrome and Lumbar Spine Disease: A Systematic Review. *Journal of Clinical Medicine*. 202202; 11(5):1304.

Inose H, Kato T, Ichimura S, Nakamura H, Hoshino M, Takahashi S, Togawa D, Hirano T, Tokuhashi Y, Ohba T, Haro H, Tsuji T, Sato K, Sasao Y, Takahata M, Otani K, Momoshima S, Hirai T, Yoshii T, Okawa A. Factors Contributing to Residual Low Back Pain after Osteoporotic Vertebral Fractures. *Journal of Clinical Medicine*. 202203; 11(6):1566.

Morimoto T, Hirata H, Otani K, Nakamura E, Miyakoshi N, Terashima Y, Wada K, Kobayashi T, Murayama M, Tsukamoto M, Mawatari M. Vertebral Osteomyelitis and Infective Endocarditis Co-Infection. *Journal of Clinical Medicine*. 202204; 11(8):2266.

Otani K, Kikuchi S, Nikaido T, Konno S. Magnitude of Dural Tube Compression Still Does Not Show a Predictive Value for Symptomatic Lumbar Spinal Stenosis for Six-Year Follow-Up: A Longitudinal Observation Study in the Community. *Journal of Clinical Medicine*. 202206; 11(13):3668.

Igari T, Otani K, Sekiguchi M, Konno S. Epidemiological Study of Lumbar Spinal Stenosis Symptoms: 10-Year Follow-Up in the Community. *Journal of Clinical Medicine*. 202210; 11(19):5911.

Yokota T, Otani K, Handa J, Nikaido T, Kojima T, Sato N, Konno S. Bow hunter's syndrome: temporary obstruction of blood flow in the affected vertebral artery during posterior occipitocervical fusion. Illustrative case. *Journal of Neurosurgery*. 202212; 4(24):CASE22428.

Kobayashi T, Morimoto T, Otani K. Comment on Yamada et al.: Reference values for the locomotive syndrome risk test quantifying mobility of 8681 adults aged 20-89 years: A cross-sectional nationwide study in Japan. *Journal of Orthopaedic Science*. 202209; 27(5):1164-1165.

Morimoto T, Hirata H, Ueno M, Fukumori N, Sakai T, Sugimoto M, Kobayashi T, Tsukamoto M, Yoshihara T, Toda Y, Oda Y, Otani K. Digital Transformation Will Change Medical Education and Rehabilitation in Spine Surgery. *Medicina*. 202204; 58(4):508.

Yoshida Y, Ono K, Tano T, Hiratsuka Y, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Yamada M, Fukuhara S, Murakami A. Corneal Eccentricity in a Rural Japanese Population: The Locomotive Syndrome and Health Outcome in Aizu Cohort Study

(LOHAS). *Ophthalmic Epidemiology*. 202210; 29(5):531-536.

Tsukamoto M, Morimoto T, Kobayashi T, Muranaka K, Yoshihara T, Maeda K, Sonohata M, Kasai Y, Otani K, Mawatari M. The relationship between traction spurs, Modic change, vacuum phenomenon, and segmental instability of the lumbar spine. *Scientific Reports*. 202212; 12(1):9939.

Ono R, Takegami M, Yamamoto Y, Yamazaki S, Otani K, Sekiguchi M, Konno S, Kikuchi S, Fukuhara S. Impact of lumbar spinal stenosis on metabolic syndrome incidence in community-dwelling adults in Aizu cohort study (LOHAS). *Scientific Reports*. 202207; 12(1):11246.

過年業績

Nakamura M, Otani K, Kaneko Y, Sekiguchi M, Konno S. The Relationship between Exercise-Induced Low Back Pain, the Fat Infiltration Rate of Paraspinal Muscles, and Lumbar Sagittal Balance. *Spine Surgery and Related Research*. 202111; 6(3):261-270.

[総説等]

兼子陽太, 二階堂琢也, 大谷晃司, 紺野慎一. 【整形外科画像診断・評価の進歩】X線検査腰痛とX線学的指標. *整形外科*. 202205; 73(6):502-507.

研究発表等 (講演・口頭発表等)

[研究発表]

Kaneko Y, Otani K, Sekiguchi M, Tominaga R, Nakamura M, Kobayashi K, Konno S. Radiographic parameters for the lumbar spine of L1 axis sacral distance and sacral slope angle are associated with low back pain. *ISSLS Annual meeting 2022*; 20220509-13; Boston, USA.

Kobayashi H, Otani K, Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi Y, Yabuki S, Konno S. Multidimensional evaluation of the effects of psychosocial factors on postoperative lumbar spinal stenosis -A 3-year retrospective cohort study using the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ). *ISSLS Annual meeting 2022*; 20220509-13; Boston, USA.

Kobayashi K, Otani K, Sekiguchi M, Tominaga R, Watanabe T, Konno S. Facet joint degeneration preceding the intervertebral disc: an epidemiological study in the community. *ISSLS Annual meeting 2022*; 20220509-13; Boston, USA.

Kobayashi K, Otani K, Sekiguchi M, Tominaga R, Watanabe T, Konno S. Facet joint osteoarthritis and low back pain: an epidemiological study in the community. ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Kobayashi K, Otani K, Sekiguchi M, Tominaga R, Watanabe T, Konno S. Prevalence of facet joint degeneration preceding the intervertebral disc: an epidemiological study in community. ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Nikaido T, Watanabe K, Kato K, Kobayashi H, Kobayashi Y, Sekiguchi M, Otani K, Yabuki S, Konno S. Mid-term clinical results of spinal endoscopic decompression for lumbar degenerative spondylolisthesis with spinal stenosis: Does facet joint orientation affect the postoperative results? ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Otani K, Sekiguchi M, Tominaga R, Konno S. Can Wall-Occiput distance and Rib-Pelvis distance be used to assess sagittal spinal alignment? ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Watanabe K, Otani K, Sekiguchi M, Nikaido T, Kato K, Kobayashi H, Tominaga R, Konayashi Y, Yabuki S, Kikuchi S, Konno S. Sagittal imbalance and need for future care in elderly adults: Locomotive Syndrome and Health Outcomes in the Aizu Cohort Study (LOHAS). ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Watanabe T, Otani K, Kobayashi K, Sekiguchi M, Konno S. Natural history of the lumbar facet joint angle and onset of spondylolisthesis over 10 years. ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

Yokota T, Kato K, Otani K, Sekiguchi M, Yabuki S, Nikaido T, Watanabe K, Kobayashi H, Tominaga R, Konno S. Associations between treatment and health-related quality of life in patients with symptomatic lumbar spinal stenosis: a retrospective propensity score-matched analysis in the Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS) database. ISSLS Annual meeting 2022; 20220509-13; Boston, USA.

小林良浩, 渡邊和之, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊髄クモ膜下麻酔下手術後に馬尾障害の悪化が認められた腰部脊柱管狭窄の1例. 第32回東北脊椎外科研究会; 20220122; Web. 東北整形災害外科学会雑誌. 65(1):256.

中野優, 渡邊和之, 小林良浩, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. ムコ多糖症に合併した腰部脊柱管狭窄の治療経験 一例報告. 第32回東北脊椎外科研究会; 20220122; Web. 東北整形災害外科学会雑誌. 65(1):256.

大槻紀亜良, 渡邊和之, 小林良浩, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 大動脈解離を合併したびまん性特発性骨増殖症に伴う胸椎骨折の治療経験 1例報告. 第32回東北脊椎外科研究会; 20220122; Web. 東北整形災害外科学会雑誌. 65(1):267-268.

小林良浩, 渡邊和之, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. 脊髄クモ膜下麻酔下手術後に馬尾障害の悪化が認められた腰部脊柱管狭窄症の1例. 第44回福島脊椎脊髄疾患研究会; 20220326; Web.

中野優, 渡邊和之, 小林良浩, 小林洋, 加藤欽志, 二階堂琢也, 大谷晃司, 矢吹省司, 紺野慎一. ムコ多糖症に合併した腰部脊柱管狭窄症の治療経験-1例報告-. 第44回福島脊椎脊髄疾患研究会; 20220326; Web.

渡邊和之, 大谷晃司, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 小林良浩, 富永亮司, 関口美穂, 矢吹省司, 紺野慎一. 成人脊柱変形における代償性変化とうつと関連 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):236.

兼子陽太, 大谷晃司, 関口美穂, 富永亮司, 小林賢司, 中村正隆, 紺野慎一. 腰椎 X 線学的指標である L1 軸仙椎間距離と仙骨傾斜角は腰痛と関係する 南会津スタディ. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):242.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 富永亮司, 渡邊剛広, 紺野慎一. 腰椎椎間板に先行した椎間関節変性に関連する背景因子の検討 南会津スタディ. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):319.

小林洋, 大谷晃司, 関口美穂, 富永亮司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄は認知症発症のリスク因子である 運動器検診と介護保険システムのデータを用いた前向きコホート研究 LOHAS study. 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):399.

大谷晃司, 菊地臣一, 関口美穂, 紺野慎一. 一般住民における腰部脊柱管狭窄症と腰痛との関係 (第2報). 第51回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of

Spine Research. 13(3):508.

富永亮司, 栗田宜明, 二階堂琢也, 関口美穂, 大谷晃司, 岩渕真澄, 白土修, 福原俊一, 紺野慎一. 脊柱矢状面アライメントと腰痛特異的 QOL との用量反応関係. 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):520.

大谷晃司, 関口美穂, 富永亮司, 紺野慎一. 壁-後頭距離 (Wall-Occiput distance) や肋骨-骨盤距離 (Rib-Pelvis distance) は、矢状面脊柱アライメント評価に使用可能か? 第 51 回日本脊椎脊髄病学会学術集会; 20220421-23; 横浜. Journal of Spine Research. 13(3):521.

小林孝巨, 森本忠嗣, 島ノ江千里, 小野玲, 大谷晃司, 馬渡正明. 併存疾患はロコモ 25 スコアとロコモの診断率を増加させる. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(2):S118.

小林洋, 大谷晃司, 二階堂琢也, 渡邊和之, 加藤欽志, 小林良浩, 矢吹省司, 紺野慎一. 頸椎内視鏡下椎弓切除術による QOL の改善効果 頸椎症性脊髄症における選択的後方除圧術との比較. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(2):S228.

吉原智仁, 森本忠嗣, 塚本正紹, 大谷晃司, 園畑素樹, 馬渡正明. ロコモティブシンドロームとメタボリックシンドロームの相互関係についての探索的検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(2):S299.

大谷晃司, 紺野慎一, 関口美穂, 小野玲, 村田峻輔, 内田一彰. ロコモティブシンドロームにおける BMI の意義 地域在住住民 2735 名に対する検討. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(2):S299.

渡邊和之, 大谷晃司, 関口美穂, 二階堂琢也, 加藤欽志, 小林洋, 富永亮司, 小林良浩, 矢吹省司, 菊地臣一, 紺野慎一. 地域住民における脊椎骨盤パラメーターと新規要介護との関連 LOHAS. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(3):S581.

小林孝巨, 森本忠嗣, 小野玲, 大谷晃司, 馬渡正明. 握力はロコモティブ症候群の予測に役立つのか. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(3):S910.

大谷晃司, 菊地臣一, 関口美穂, 紺野慎一. 壁-後頭距離 (Wall-occiput distance) や助

骨-骨盤距離 (rib-pelvis distance) は、骨粗鬆症検診に使用可能か. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(3):S917.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 富永亮司, 渡邊剛広, 紺野慎一. 腰椎椎間板に先行した椎間板変性と腰痛との関連の検討 南会津スタディ. 第 95 回日本整形外科学会学術総会; 20220519-22; 神戸. 日本整形外科学会雑誌. 96(3):S1065.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 紺野慎一. 地域住民の腰椎椎間関節変性発生のリスク因子の検討 11 年フォローアップ 南会津スタディ. 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20221013-14; 宮崎. 日本整形外科学会雑誌. 96(8):S1581.

小林賢司, 大谷晃司, 関口美穂, 兼子陽太, 紺野慎一. 一般住民における腰椎椎間関節変性と腰椎単純 X 線アライメント評価項目との関連 南会津スタディ. 第 37 回日本整形外科学会基礎学術集会; 20221013-14; 宮崎. 日本整形外科学会雑誌. 96(8):S1848.

横田武尊, 加藤欽志, 富永亮司, 関口美穂, 二階堂琢也, 大谷晃司, 栗田宣明, 福原俊一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する保存療法と自然経過との比較 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study (LOHAS). 第 30 回日本腰痛学会; 20221021-22; 盛岡. Journal of Musculoskeletal Pain Research. 14(4):S51.

横田武尊, 加藤欽志, 富永亮司, 関口美穂, 二階堂琢也, 大谷晃司, 栗田宣明, 福原俊一, 紺野慎一. 腰部脊柱管狭窄に対する保存療法が健康関連 QOL に与える効果についての検討 Locomotive syndrome and health outcome in Aizu cohort study(LOHAS). 第 44 回日本疼痛学会; 20221202-03; 岐阜. PAIN RESEARCH. 37(4):241.

〔特別講演〕

大谷晃司. 運動器難治性疼痛治療の実際－神経障害性疼痛を含む－. 福島整形外科ミーティング; 20220702; 郡山.

大谷晃司. 私の運動器難治性疼痛治療－神経障害性疼痛を含む－. 痛み・シビレを考える; 20220920; 盛岡.

大谷晃司. 難治性腰痛の病態と治療. 脊椎疾患と痛みを考える Web セミナー; 20221031; 郡山.

【看護学教育研修部門】

研究発表等

〔研究発表〕

丸山 育子, 黒田るみ. 福島県内看護師の新型コロナウイルス感染症に関連したメンタルヘルスとその関連要因. 第42回日本看護科学学会学術集会; 20221203-20221204; 広島 WEB 開催

佐藤美保, 田中啓子, 高瀬佳苗. スコーピングレビューを参考にした口唇口蓋裂者に関する心理学的な研究の文献検討. 第500回福島医学会学術集会; 20221027; 福島.

高瀬佳苗, 鈴木学爾, 川島理恵. 災害時に長期間にわたり避難した経験をもつ高齢者の健康管理行動の特徴. 第42回日本看護科学学会学術集会; 20221203-20221204; 広島 WEB 開催.

【災害医療総合学習センター】

論 文

〔原 著〕

Ishikawa T, Ohba T, Hasegawa A, Akahane K, Yasumura S, Kamiya K, Suzuki G., Comparison between external and internal doses to the thyroid after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident, Journal of Radiation Research, 64, 387-398, 2023

越智元郎、長谷川有史、廣橋伸之、山本尚幸、森實岳史、平塚義康、大蔵隆文、原子力災害時の活動に関するDMAT隊員への意識調査, Japanese Journal of Disaster Medicine 27, 65-74, 2022

大葉隆、真船浩一、菅野修一、佐藤健一、長谷川有史、原子力災害に対応できる診療放射線技師の人材育成の要点-福島第一原子力発電所事故の経験と教訓から、日本診療放射線技師会誌 70, 19-28, 2023

〔書 籍〕

Hasegawa A, Initial turmoil in an emergency setting, HEALTH EFFECTS OF THE FUKUSHIMA NUCLEAR DISASTER, 23-40, Academic Press, 2022

〔総 説〕

佐藤良信、貝沼純、長谷川有史、手術室における被ばく・汚染傷病者の受入れ（前編）、手術看護エキスパート 16, 1, 88-95, 2022

貝沼純、佐藤良信、長谷川有史、手術室における被ばく・汚染傷病者の受入れ（後編）、手術看護エキスパート 16, 2, 69-75, 2022

長谷川有史、被ばく医療-レジデントが知るべき最低限の知識-, 月間レジデント 136, 15, 3, 81-95, 2022

長谷川有史、福島リポート オンサイト医療 - 原子力施設で誰が命を救うのか, 日本医事新報 5159, 54-57, 2023

研究発表等

〔研究発表〕

Keita Iyama, Yoshinobu Sato, Arifumi Hasegawa, "Objective stress values during radiation emergency medicine for future human resources", 21st International Conference on Emergency Medicine, 202206, Web

Arifumi HASEGAWA, Quest for Evidence-Based Narratives in Medical Education, IAEA consultancy meeting, 202206, web

Arifumi HASEGAWA, Interprofessional disaster training using VR platform -beyond the COVID-19 pandemic using the original 3D/VR online simulator for CBRNE disaster, 2023 International Conference in Healthcare Simulation, Simposium, MaSSH-PASSH 202303, Malaysia

佐藤良信、井山慶大、長谷川有史、光武範吏, シャツ型心電計を用いたストレス評価-原子力災害医療への応用-, 第6回放射線災害・医科学研究拠点カンファレンス, 口頭発表, 202206, オンライン

長谷川有史、平良文亨, 汚染傷病者の空路搬送「福島県の現状」, 第10回日本放射線事故・災害医学会シンポジウム, 202209, 松山市

長谷川有史, 原子力災害時の汚染傷病者受入れ時の放射線管理に関する指針の提案”, 第50回日本救急医学会総会・学術集会 口頭発表, 202210, 東京都

長谷川有史, “救急科領域講習7, 原子力災害に救急医が関わる事の意義”, 第50回日本救急医学会総会・学術集会特別講演, 202210, 東京都

長谷川有史, 災害医学研究の社会還元, 第28回日本災害医学会総会・学術集会 学会主導シンポジウム, 202303, 盛岡市

長谷川有史, 東日本大震災 被災地からの発信, 第28回日本災害医学会総会・学術集会シンポジウム・ワークショップ, 202303, 盛岡市

長谷川有史, 災害訓練ソフトウェア Kawauchi Legendsの開発と運用 - Post COVID-19を視野に, 第1回東日本大震災・原子力災害学術研究集会, 202303, 福島市

長谷川有史, 災害訓練ソフトウェア Kawauchi Legendsの開発と運用への思い - Post COVID-19を視野に, 長崎大学復興推進拠点活動報告会, 202303, 双葉町

〔座 長〕

長谷川有史, 原子力災害医療における未解決の重要課題, 第10回日本放射線事故・災害医学会特別講演, 202209, 松山市

長谷川有史, 放射線災害対応の過去・現在、そして未来—誰が命を救うのか, 第28回日本災害医学会総会・学術集会パネルディスカッション, 202303, 盛岡市

【保健科学教育研修部門】

研究発表等

〔研究発表〕

樵 勝幸, 福島 賢慈, 右近 直之, 根本 彩香, 久保 均, 山國 遼, 伊藤 浩. 心筋血流アンモニア PET/MR における MR 吸収補正プロトコールの比較検討. 核医学技術(0289-100X)42 巻予稿集 Page340(2022. 08).

伊藤 浩, 茨木 正信, 山國 遼, 末永 博紀, 菅原 茂耕, 石井 士朗, 福島 賢慈, 久保 均, 右近 直之, 西嶋 剣一, 高橋 和弘. 0-15 標識ガス定常吸入法を用いた脳循環代謝諸量の無採血定量法の開発 理論とシミュレーション. 核医学(0022-7854)59 巻 Suppl. Page S459(2022. 08).

山品 博子, 広藤 喜章, 久保 均, 田代 雅実, 原田 崇臣. OSCE 導入に向けた標準模擬患者の育成と動画学習素材の試作. 診療放射線学教育学(1883-5961)10 巻 Page72(2022. 12).

広藤 喜章, 原田 崇臣, 五月女 康作, 山品 博子, 久保 均. 高校物理教科書における放射線関連分野の詳細. 診療放射線学教育学(1883-5961)10 巻 Page61(2022. 12).